

2024年度

年 報



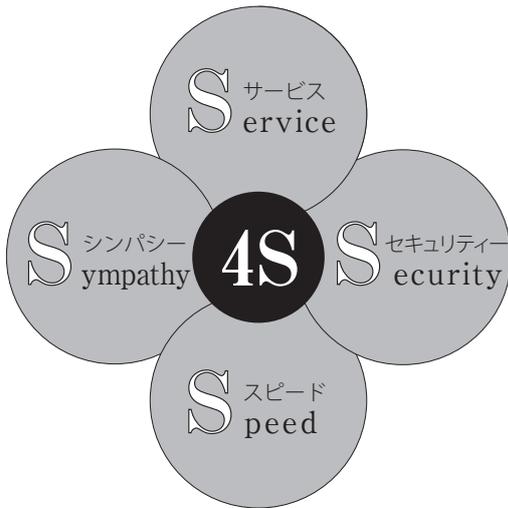
独立行政法人 地域医療機能推進機構

相模野病院

Sagamino Hospital



独立行政法人地域医療機能推進機構 相模野病院 基本理念



- S e r v i c e
先進の医療を快適に提供します
- S y m p a t h y
患者の皆様と想いを共有します
- S e c u r i t y
優れた安全対策で皆様を守ります
- S p e e d
すべてに迅速な対応を心がけます



独立行政法人地域医療機能推進機構 相模野病院 基本方針

1 患者第一主義

常に診療を受ける皆様の立場で考え誠実に行動します

2 安全確保

すべての診療現場で患者の皆様が安心できる環境を作り
安全で質の高い医療を提供します

3 社会貢献

良質な医療提供を基本として積極的に社会に貢献をします

4 公正で透明性のある病院

高い倫理観に基づき様々な情報を開示します

5 働きがいのある職場作り

創造性、主体性を尊重しあい自由で働きやすい職場を実現します



独立行政法人地域医療機能推進機構 相模野病院 施設認定



FS 522898 ISO 9001 : 2015

ISO 9001

認定日 : 2007年12月18日



人間ドック・健診施設機能評価認定第191号

日本病院会 日本人間ドック学会認定

認定日 : 2008年1月15日





発刊のご挨拶

独立行政法人 地域医療機能推進機構 相模野病院

院長 今崎 貴生

2024年度年報を発刊するにあたり、心より皆様に御礼申し上げます。当院にご来院頂いた患者さん、健診受診者さん、地域市民の皆さん、各大学の方々、診療所の先生方、医師会や病院協会など関係諸団体、行政の皆さん、お世話になった関係業者の方々、ありがとうございました。

2024年度は大変な一年でした。大変じゃない一年はないのかもしれませんが、物価の高騰、少子高齢化、医師の働き方改革、厳しい診療報酬改定などの社会の変化や医療体制の変化は、大きな荒波となって相模野病院を洗って行きました。どれだけ残るか、新米院長の私にとっては、毎日毎日不安でした。随分持っていかれたようなのですが、置いて行ってくれたものもありました。当院に入院して下さった患者さん、来院して下さった患者さんや受診者さん、本当にありがとうございます。お互い辛い状況にも関わらず、お付き合いを継続して下さっている各大学、診療所、関係業者の方々などにも心から感謝しております。

私は良質な病院というのは社会の宝だと思っています。勿論、当院はまだ、胸をはって大きな声で、我々は良質な病院です、とは言えないかもしれませんが、そうありたいと願っております。やや手前味噌を許して頂ければ、良質な医療を少しは提供している積りです、位は言えるのかもしれないと勝手に考えています。然しながら、現況で良質な医療を提供することは、非常な難題であることがこの一年で良くわかりました。厳しい社会情勢のせいでもあるでしょうし、我々の力不足、努力不足のためでもあると思います。私共は小さな病院ですが公的病院の端くれとして、病院機能と健康管理センターの両輪で、市民の健康のために少しでも良い仕事をしたい思いを持っています。職員一同頑張らなければ、と思っております。

この年報を通じて、我々の取り組みや成果をご報告できることを嬉しく思います。医療、介護の仕事は、暫くは苦しい状況が続くと思いますが、皆様に支えて頂きながら乗り切っていこうと思えます。何卒、宜しくお願い申し上げます。



年報発行に寄せて

事務部長 織田 修治

事務部長の織田修治と申します。

日頃よりの当地域の皆さまからのご支援、ご指導に対して、当院職員の診療への努力に対し、この場をお借りして心より御礼並びに感謝を申し上げます。

年報の発行に際し、令和6年度の当院の運営についてご報告申し上げます。

院内でのトピックスといたしましては、令和6年度より、前任の今泉弘院長がJCHO本部の理事に就任され、今崎貴生副院長が新たな院長として当院の舵取りを担って頂くこととなりました。

また、8月からは、北里大学のご協力により無痛分娩を開始することができました。産科専門医による安全な無痛分娩が可能となり、周産期センターの機能向上が叶ったことを大変喜ばしく思っております。

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の区分が5類へ変更されてから1年程が経過し、市中ではマスクを着用する方も減少傾向にあるようですが、当院においては、感染防止の観点から引き続きマスクの着用をお願いしております。

入院患者さんへの面会も幾ばくかの制限はさせていただいておりますが再開し現在に至ります。

一方、病院の運営状況に関しては、極めて冷たい北風に晒される1年間となりました。諸物価の高騰による費用増加の波が押し寄せたため、病院運営への影響は非常に大きく、辛いものとなりました。電気料金、委託費、材料費等々個別に上げれば枚挙に遑の無い程の影響の大きさが継続しています。

しかしながら、職員の弛みない協力により、何とか一定水準の成績を維持することができましたが、次年度も状況の好転は期待できず、苦戦を強いられるものと覚悟しております。

諸行事に関しては、10月16日に『顔の見える地域連携の会』を、ささやかなものではありましたが近隣の開業医の先生方のご出席を賜り開催することができ、大変有意義な時間となりました。

11月8日には、日頃より当院健診センターをご利用下さっている企業の皆さま等にご参集いただき、『健康講演会』の開催の機会を得ることができました。

令和7年度も、病院運営においては、様々な障壁があると考えられますが、今後とも、当地域の皆さま方のご意見を伺いつつ、当地域の医療体制に貢献できるよう精一杯努めて参ります。引き続きご指導の程、どうぞよろしくお願い申し上げます。



年報に寄せて

看護部長 出口 孝子

2024 年度を振り返り、看護部の取組と成果および課題についてお示しします。

今年度はアフターコロナの中、看護職員ひとり一人がやるべきことを自覚し、組織への貢献ができた年でした。当院の役割である、「地域住民のみなさんに必要とされる病院」を実現できるよう、地域連携室に専任の看護師長を配置し、地域の医療機関や施設からの問い合わせや緊急入院の要請に早急に対応できるよう努めてまいりました。緊急入院に備えるための病床の確保も、看護師長が日々調整し、柔軟に対応することが出来ました。

また、新しい治療や専門性の高い看護についても学びを深め、母子センターでの無痛分娩のスタートに備えた学習と実践や産後ケアの強化、身体拘束を最小限にする取組も行ってきました。

他部門との連携では、今年度はリハビリ部門との協働を強化し、特に地域包括ケア病棟では、患者さんが楽しみながらリハビリができるようなレクリエーションの実施や、看護職員による休日のリハビリ時間の確保を行うことが出来ました。

人材確保や後進の育成の取組では、定期的なインターンシップの開催はもちろん、新たに県立よこはま看護専門学校の実習の受け入れを開始しました。次年度は東京医療保健大学の看護学科および助産学の実習受け入れも開始すべく、体制整備を行っています。

働き方改革では、複数の処置を看護師が請け負い、医師の負担軽減への取組ができました。現在、化学療法に関して医師のみ行っている処置を看護師にシフトできるよう体制整備を行っています。次年度も、看護職員がより専門性の高い業務に専念できるよう、継続してタスクシフトに取組みたいと思います。

年に2回開催している地域連絡協議会を活用し、NICU・GCUと地域包括ケア病棟より、看護の内容について講演し、たくさんのご意見を頂くことができました。地域に根差した病院であり続けるために、率直な要望や反響を頂くことは大変励みにもなりました。地域の方に関心を持っていただき選ばれる病院を目指し、次年度も力を合わせて進みたいと思います。

目 次

基本理念

発刊のご挨拶

院 長	今崎 貴生
事務部長	織田 修治
看護部長	出口 孝子

I 病院の現況

病院の概要	1
組織図	2
職員配置状況	4
会議・委員会一覧	5
公衆衛生活動地域と 相模原市における診療圏	7

II 医事統計

III 診療部門

内科	15
呼吸器内科	16
循環器内科	17
血液内科	18
小児科・新生児科	19
乳腺外科	21
消化器外科	22
整形外科	24
産婦人科（周産期母子医療センター）	25
（婦人科腫瘍センター）	26
腎臓内科／血液浄化センター	27
眼科	28
歯科口腔外科	29
泌尿器科	30
麻酔科	31
消化器内科／内視鏡室	32
外来化学療法室	33

IV 医療技術部門

薬剤部	35
臨床検査部	37
放射線部	38
リハビリテーション室	39
視能訓練士	40
栄養管理室	42
ME室（臨床工学室）	43

V 看護部門

外来	45
手術室・中央材料室	46
3 A病棟	47
4 A病棟	48
4 B病棟	49
5 A病棟	50
5 B病棟	51
NICU/GCU	52
検査治療部門	53

VI 事務部門

総務企画課	55
経理課	56
医事課	57
診療情報管理室	58
医事課 医師事務作業補助員	59
安全管理室	60
総合患者支援センター	61
洗濯室	63

VII 健康管理センター

健康管理センター（診療部）	65
健康管理センター（看護部）	66
健康管理センター（事務部）	67

VIII 訪問看護ステーション

訪問看護ステーション	69
------------	----

IX 学術業績

循環器内科	71
乳腺外科	71
産婦人科（周産期母子医療センター）	71
消化器内科／内視鏡室	71
リハビリテーション室	72

I 病院の現況



病院の概要

▶ 施設概略 ◀

開設 昭和 35 年 4 月
開設者 独立行政法人地域医療機能推進機構
施設名 相模野病院
病院長 今崎 貴生
所在地 神奈川県相模原市中央区淵野辺 1-2-30
敷地面積 10,302.06㎡
建物面積 18,535.5㎡
構造規模 鉄骨造 7 階建
駐車台数 211 台
許可病床数 212 床
職員数 466 名（令和 7 年 3 月 31 日現在）

▶ 標榜診療科目 ◀

内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、血液内科、腎臓内科、神経内科、リウマチ科、小児科、外科、乳腺外科、血管外科、消化器外科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、麻酔科、歯科口腔外科、リハビリテーション科、放射線科

▶ 診療指定 ◀

保険医療機関、労災指定、母体保護法指定、生活保護、育成医療、小児慢性疾患、被曝者、救急告示

▶ 附属施設 ◀

健康管理センター、周産期母子医療センター、小児成育医療センター、婦人科腫瘍センター、不妊生殖医療センター、NICU・GCU、消化器病センター、循環器病センター、血液浄化センター、訪問看護ステーション

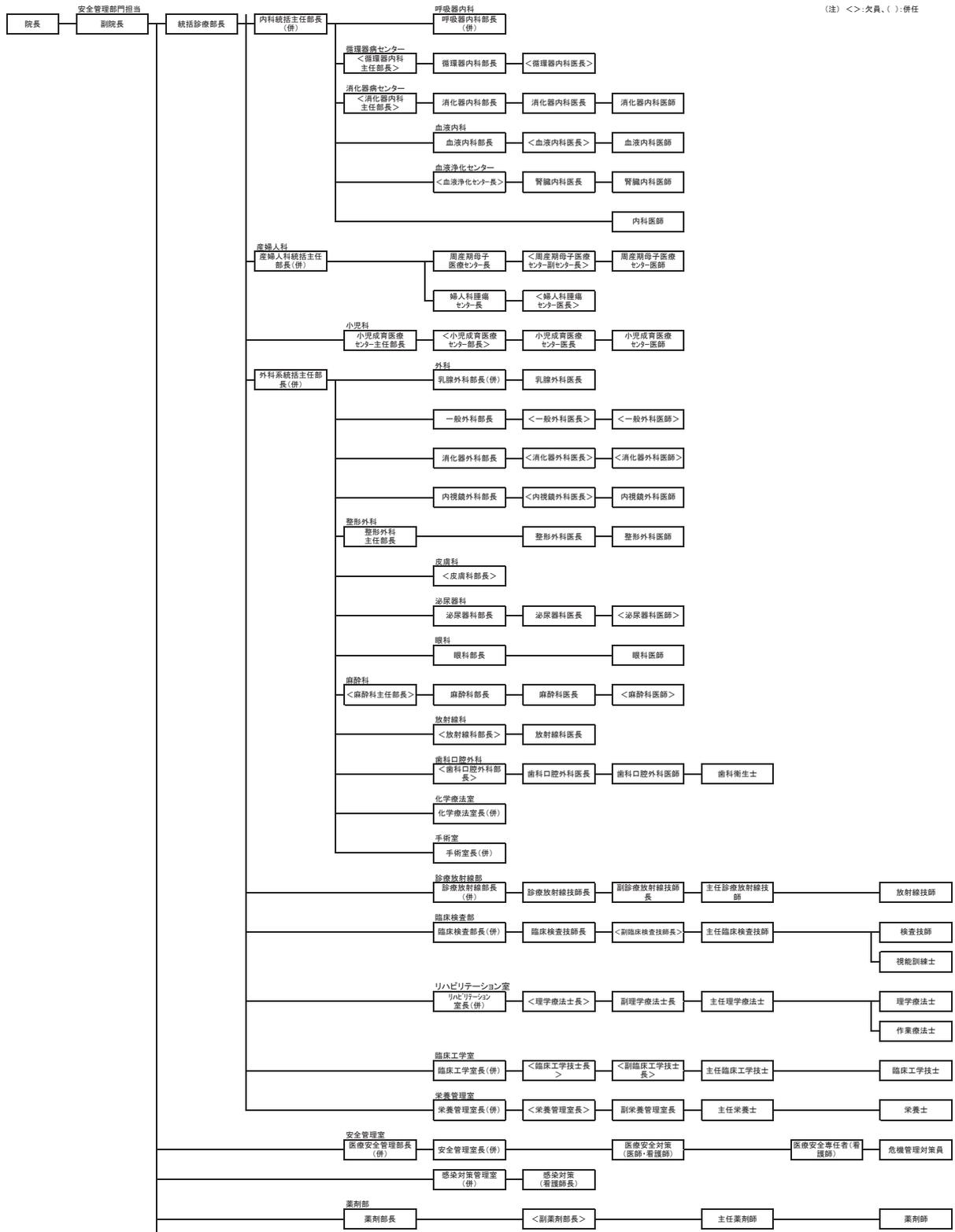
▶ 主な施設認定 ◀

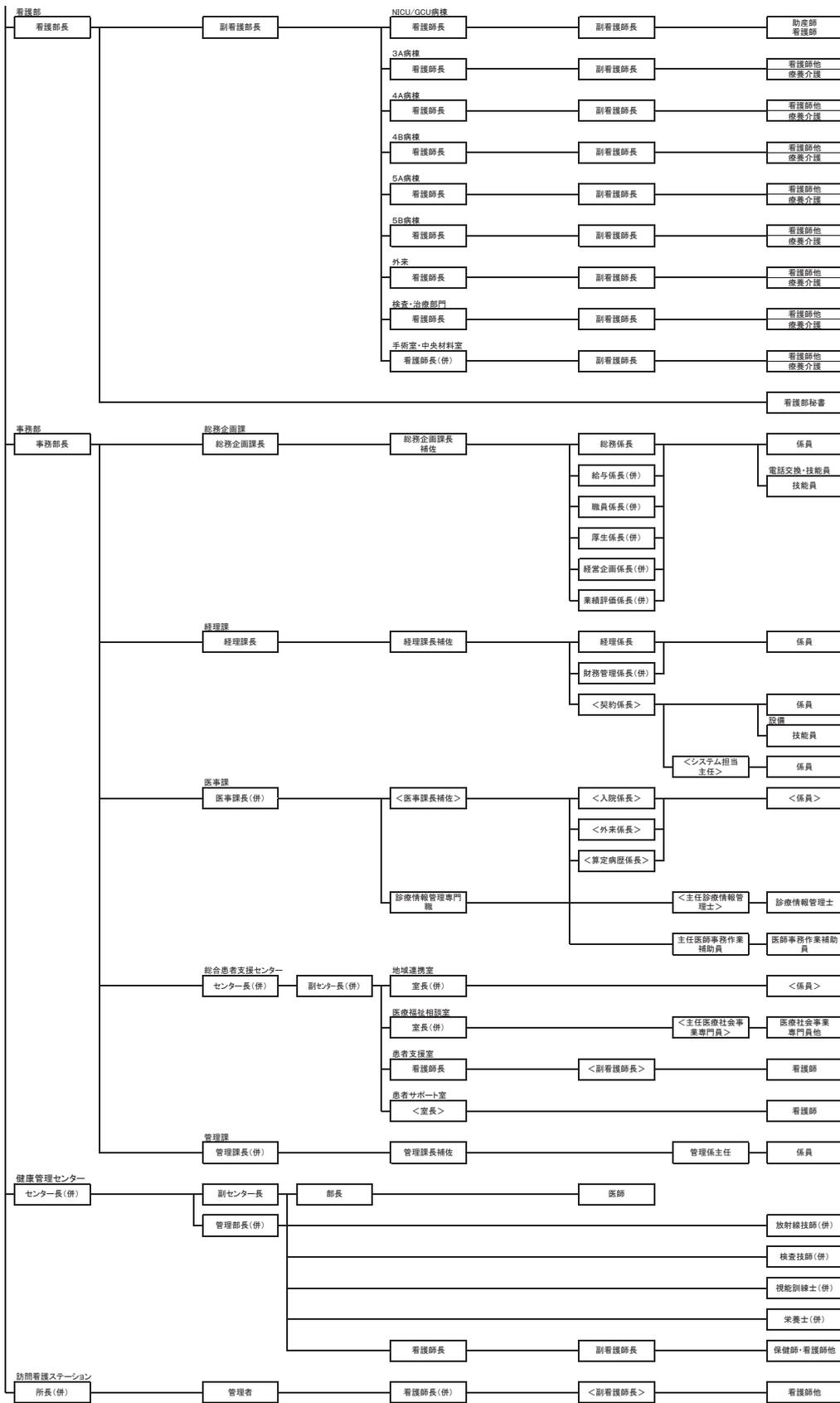
- ・厚生労働省指定臨床研修施設
- ・日本周産期・新生児学会 母体・胎児指定施設
- ・日本周産期・新生児医学会 新生児指定施設
- ・母体保護法指定医師指定研修機関
- ・日本内科学会認定医制度教育関連施設
- ・日本呼吸器学会認定施設
- ・日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度関連認定施設
- ・日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
- ・日本消化器病学会専門医制度認定施設
- ・日本消化器内視鏡学会指導施設
- ・日本胆道学会認定指導医制度指導施設
- ・日本消化管学会胃腸科指導施設
- ・日本静脈経腸栄養学会 N S T 稼働施設
- ・日本透析医学会専門医制度教育関連施設
- ・日本血液学会認定専門研修教育施設
- ・日本外科学会外科専門医制度関連施設
- ・日本乳癌学会専門医制度認定施設
- ・日本遺伝性乳癌卵巣癌総合診療制度機構 遺伝性乳癌卵巣癌総合診療協力施設
- ・日本乳がん検診精度管理中央機構認定マンモグラフィ検診施設
- ・日本整形外科学会専門医制度研修施設
- ・日本眼科学会専門医制度研修施設
- ・日本麻酔科学会麻酔科認定施設
- ・日本泌尿器科学会泌尿器専門医教育施設
- ・日本口腔外科学会専門医制度認定准研修施設
- ・日本口腔診断学会認定研修機関
- ・日本口腔内科学会研修施設
- ・日本医学放射線学会画像診断管理認証施設 MRI 安全管理に関する事項
- ・NCD（National Clinical Database）施設会員
- ・ISO9001 認定施設
- ・健康評価施設査定機構優良認定施設
- ・日本総合健診医学会人間ドック健診専門医研修施設
- ・日本人間ドック学会人間ドック健診専門医研修施設
- ・日本人間ドック学会優良人間ドック・健診施設
- ・日本病院会優良人間ドック・健診施設
- ・日本総合健診医学会優良総合健診施設
- ・人間ドック健診施設機能評価認定施設

相模野病院 組織図

令和6年10月1日現在

(注) <>: 次員、(): 併任





職員配置状況

令和7年3月31日現在

職員数	常勤職員数	任期付職員数	非常勤職員数	計	長欠者（再掲）
医師	44	3	3	50	
歯科医師	2			2	
薬剤師	11		1	12	
臨床検査技師	16	1	4	21	
診療放射線技師	15	1		16	
栄養士	3			3	1
管理栄養士（再掲）	3			3	1
理学療法士	8			8	
作業療法士	1			1	
歯科衛生士	2			2	
視能訓練士	1	1		2	1
臨床工学技士	7			7	
保健師	4			4	1
助産師	19	1	4	24	3
看護師	191	7	33	231	11
准看護師	2			2	
事務職員	21		11	36	2
診療情報管理員	5			5	
医療社会事業専門員	3			3	
医師事務作業補助者	4		1	5	1
調理師				0	
看護助手			1	1	
その他技能職員			6	6	
その他助手等	8	10	11	29	
合計	367	24	75	466	20

会議・委員会一覧

(1) 会議

会議名	構 成 員	目 的	開催頻度
管理者会議	院長、副院長、事務部長、看護部長、薬剤部長、総務企画課長	経営の動向に基づく方針の検討及び諸事業について協議	週1回
部長会議	院長、副院長、事務部長、看護部長、各診療科部長及び医長、医療技術各長、看護師長、事務部各課長	病院経営状況の報告（患者数、収支）、その他院長が必要とする事項の報告	月1回
医局会	全医務局員（医師及び研修医）	医師の診療活動、研究活動等に対し、それぞれ円滑に遂行されるために最大限努力することを目的とする	月1回

(2) 委員会

2024年3月31日 現在

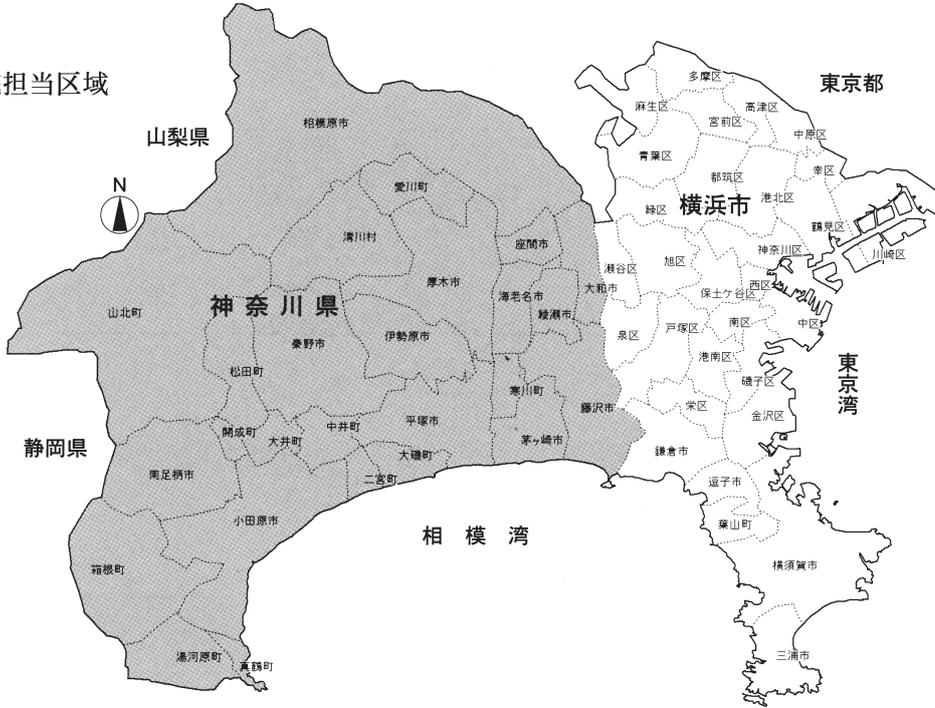
委員会名	構 成 員	目 的	開催頻度
医療安全対策委員会	医局、看護部、放射線部、薬剤部、検査部、栄養課、理学療法室、ME室、事務部の各部門長	近年の医療行為の複雑化に伴い、医療事故が多発する可能性がある。 人が行う行為であり「事故は起こる」という前提に立ち、個人の努力だけに頼るのではなく、各部門が組織的、系統的に事故防止に取り組むため、部門内、部門間に連帯的リーダーシップを発揮する会として発会する。	毎月定例 第三水曜日
感染防止対策委員会	委員長1名（医師）、副委員長1名、院長、看護部長、事務部門の責任者、各病棟医師、薬剤部長、臨床検査技師長、臨床検査技師、診療放射線技師、栄養士、事務職	病院内で問題となる感染症を予防し、発症した際にはその拡大を防ぐことであり、そのために病院全体が組織的にその対策に取り組むことを目的とする。	毎月定例 最終水曜日
褥瘡対策委員会	医師、看護師、薬剤師	褥瘡ケアの向上と維持を図り、効果的な褥瘡対策を推進するため褥瘡対策委員会を設置する。	毎月定例 第二水曜日
栄養・NST委員会	医師、管理栄養士、薬剤師、臨床検査技師、給食委託業者責任者	相模野病院において、栄養業務の企画、運営及び改善に関すること、嗜好調査に関すること、給食施設、機器の整備に関すること、その他、栄養に関することをチームで検討する。入院患者の栄養状態を判定し、栄養管理を選択、提供することで患者の回復を高め、疾病治療、感染予防、褥創予防、在院日数短縮等に貢献することを目的とする。	隔月 第二水曜日
防災対策委員会	医師、事務職、看護師、薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師、理学療法士、臨床工学技士、管理栄養士、警備担当者	病院の円滑かつ安全な事業の運営に資するため、防災対策、防災訓練等に係わる検討及び訓練の実施を目的とする。	随時
倫理・教育倫理・個人情報保護委員会	医師、看護部長、事務部長、看護師、薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師、事務職	病院において、医学研究および診療が前文の趣旨に沿った倫理的原則にもとづいて行われるために、委員会を設置する。委員会は、それぞれ基本的事項、ヒトを対象とする研究、医療行為を主たる審議事項とする。病院全職員の業務能力の適確性を明らかにし、職能要件書に基づきその能力の維持向上と患者満足のために的確な能力を有することができるよう教育訓練を実施するものである。 個人情報保護に関する法律にもとづき、病院を利用する患者様とその関係者に関する個人情報の適切な取り扱いを実施することを目的とする。	随時
倫理委員会	医師、看護部長、薬剤部、検査部、放射線部、事務職、診療情報管理士、外部委員	臨床研究と医療行為を、医の倫理に基づいて適正に行われるように配慮することを目的とする。	随時
治験委員会	①病院の専任職員で管理職員 ②病院の専任職員で管理職員以外の者（医学非専門者も含む） ③院外の学識経験者若干名	病院における治療を適正かつ円滑実施を図るため、治験委員会を設置する。	随時
手術室運営委員会	手術室室長、麻酔科医、手術室看護師長、手術室副看護師長、薬剤師、臨床工学技士、診療放射線技師	1) 患者が安全・安楽にかつ確実に手術が受けられるように専門職としての技術を身につける 2) 科学的根拠に基づき、常に患者最優先の看護を提供する 3) 手術室基準に沿って、業務を安全・円滑に実施する 4) 緊急手術に対応するため24時間体制で人員・手術器械を確保する	隔月 第三水曜日
有害事象・事故調査委員会	(1) 院内医療安全にかかわる職員 (2) 医療事故にかかわった職員 (3) 必要時外部の有識者、法律家（弁護士を含む） (4) その他安全管理室または院長が必要と認めた者	医療事故が発生した場合、一定の基準により、原因究明と再発防止について客観的な視点から公平性、透明性を高めることを目的とする。	随時

委員会名	構 成 員	目 的	開催頻度
救急対策委員会	医師、看護師、薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師、臨床工学技士、事務職	二次救急応需を円滑、適正に行われるように対策を行い、問題点をあげ改善していくことが必要である。このため、JCHO 相模野病院として相模原市救急医療への協力体制を整え、救急医療を充実させることを目的とする。	随時 (金曜日)
DPC・レセプト委員会	医師、看護師、薬剤師、事務職	DPC の適正な運用について検討する。	毎月定例 第四木曜日
診療録管理委員会	診療部、看護部、事務職、薬剤部、放射線部、検査部、診療録管理担当者	効率的なカルテ管理・診療録管理業務を図るため診療録管理委員会を設置する。	毎月定例
バス委員会	医師、看護師、薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師	相模野病院の目標理念に基づき運営され、クリニカルバスを使用し、病院の提供する医療の質の向上をはかり社会貢献を目的とする。	奇数月定例
薬事委員会	医師、薬剤部長、看護部長、事務職等	相模野病院において使用するすべての医薬品（検査用医薬品を含む）および特定治療材料など医薬品消耗品の適正な管理と効率的な運用について必要な事項を審議することを目的とする。	随時
臨床検査適正化委員会	次に掲げる者の中から院長が任命し6名以内で組織する。 (1) 臨床検査部部长 (2) 臨床検査部代表 (3) 診療部診療部門医師代表 (4) 看護部代表	臨床検査の管理、運営上の適正化を図るとともに重要事項を審議し、管理運営に万全を期するため、院内各部署と連携を密にし、もって当院の発展に寄与することを目的とする。	随時
輸血療法委員会	医師、臨床検査技師、薬剤師、看護師	輸血療法は、善意の献血に支えられた治療であること、人体の細胞や液体成分を利用した独自の治療法であり、かつ副作用を皆無にしえない治療という観点から、その安全性を確保するための最大限の努力を要する。	年6回定例
化学療法委員会	医師、薬剤師、看護師、事務職	相模野病院におけるがん化学療法を中心とした治療が、外来化学療法室及び入院病棟にて安全活安心に実施出来る事を目的とする。	隔月 第二水曜日
循環器センター運営委員会	循環器医師、看護師、診療放射線技師、臨床工学技士	心臓カテーテル室は、様々な職種が関与し、カテーテル症例数が増えてきているため、多職種間との連携を目的とする。	第一水曜日 (年6回)
企画・広報委員会	医師、看護師、薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師、ソーシャルワーカー、事務職	医療環境の向上及び活動内容や情報を内外に広報し周知することを目的とする。	毎月定例 第二火曜日
業務改善委員会	医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、診療放射線技師、事務職	業務改善の推進を通じて、病院運営の効率化と職員の意欲向上を図り、もって医療サービスの向上に資することを目的とする。	毎月定例 第二火曜日
研修委員会	医師、看護師、臨床検査技師、臨床工学技士、事務職	患者サービスの向上をめざして、病院の利用者（患者様、来院者）が満足できる医療サービスを受けていただけるように利用者の意見を調整して環境・職員接遇記述の改善・向上を行うことを目的とする。	随時
医療材料委員会	医師、看護師、薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師、理学療法士、栄養士、臨床工学技士、事務職、SPD 請負業者	医療材料等の選定について審議し、病院の運営に資することを目的とする。	奇数月 第三水曜日
安全衛生委員会	委員長は安全管理者又は衛生管理者の職にある者 医師、看護師、理学療法士、診療放射線技師、事務職	相模野病院の安全衛生規定に基づき、病院の安全衛生管理体制を明確にすることで、病院の業務遂行に関連して発生する労働災害および健康障害を防止するとともに、職員の安全確保と健康の保持増進を図ることを目的とする。	毎月定例 第四水曜日
透析機器安全管理委員会	専任医師、専任臨床工学技士、臨床工学技士、看護師	安全に透析療法を行うため、透析機器の保守を計画的に取り組み、透析液清浄化ガイドライン Ver2.01に基づき、透析液の清浄化に努め、安全で質の高い透析を提供することを目的とする。	毎月定例 最終水曜日
医療ガス安全委員会	医師、薬剤師、看護師、事務職、臨床工学技士、保守管理業者	高圧ガス取締法及びその他の法令等に基づき、医療ガス設備の安全管理に関する事、医療ガスに関する知識の普及及び啓発に関する事、その他医療ガスに関する必要な事項について審議・管理し、患者・職員等の安全を確保する事を目的とする。	毎年定例
医師看護師負担軽減委員会	医師、看護部長、事務部長、薬剤部長、看護師、臨床検査技師、診療放射線技師、理学療法士、管理栄養士、事務職、診療情報管理士、医師事務作業補助員	勤務医および看護師の負担軽減計画の策定と評価に関する事項を検討することを目的とする	年2回 (6月・2月)
特定行為研修研修実施病院管理委員会	医師、看護部長、副看護部長、看護師、事務職	保健師助産師看護師法第37条の2第2項第1号に規定する特定行為及び同項第4号に規定する特定行為研修に関する省令に基づき独立行政法人地域医療機能推進機構本部に設置された、特定行為研修委員会と連携を図り、研修実施病院における特定行為研修の安全と質の保証および向上を目指すことを目的とする。	偶数月

公衆衛生活動地域と相模原市における診療圏

公衆衛生活動地域

当院担当区域



相模原市における相模野病院診療圏



Ⅱ 医 事 統 計



医事統計

▶ 2024年度患者推移(入院・外来) ◀

入院	診療実日数		患者延数		1日平均患者数	
	当月 (A)	累計 (B)	(C)	累計 (D)	当該月 (C/A)	累計 (D/B)
4月	30	30	4,804	4,804	160.1	160.1
5月	31	61	4,670	9,474	150.6	155.3
6月	30	91	4,988	14,462	166.3	158.9
7月	31	122	5,350	19,812	172.6	162.4
8月	31	153	5,303	25,115	171.1	164.2
9月	30	183	5,029	30,144	167.6	164.7
10月	31	214	5,382	35,526	173.6	166.0
11月	30	244	5,204	40,730	173.5	166.9
12月	31	275	5,201	45,931	167.8	167.0
1月	31	306	5,350	51,281	172.6	167.6
2月	28	334	4,571	55,852	163.3	167.2
3月	31	365	5,382	61,234	173.6	167.8

外来	診療実日数		患者延数 (検診除く)		1日平均患者数	
	当月 (A)	累計 (B)	(C)	累計 (D)	当該月 (C/A)	累計 (D/B)
4月	21	21	10,282	10,282	489.6	489.6
5月	21	42	10,587	20,869	504.1	496.9
6月	20	62	10,175	31,044	508.8	500.7
7月	22	84	10,844	41,888	492.9	498.7
8月	21	105	10,150	52,038	483.3	495.6
9月	19	124	10,228	62,266	538.3	502.1
10月	22	146	10,873	73,139	494.2	501.0
11月	20	166	10,197	83,336	509.9	502.0
12月	20	186	10,375	93,711	518.8	503.8
1月	19	205	9,868	103,579	519.4	505.3
2月	18	223	9,186	112,765	510.3	505.7
3月	20	243	10,045	122,810	502.3	505.4

▶ 入 院 ◀

全科	入院患者 1 日平均の月別推移												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2024年度	160.1	150.6	166.3	172.6	171.1	167.6	173.6	173.5	167.8	172.6	163.3	173.6	167.7

全科	入院患者 1 人平均の診療額												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2024年度	69,862	73,774	70,768	75,638	75,810	72,699	76,988	76,638	75,797	74,110	76,496	68,551	73,928

内科	入院患者 1 日平均の月別推移												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2024年度	96.2	84.5	96.5	99.7	94.5	102.5	99.4	99.4	95.5	102.4	88.1	102.4	96.8

内科	入院患者 1 人平均の診療額												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2024年度	56,359	58,257	59,927	60,753	63,831	60,247	64,528	65,568	64,123	62,902	64,226	59,110	61,653

小児科	入院患者 1 日平均の月別推移												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2024年度	10.9	8.2	10.8	15.5	14.0	12.3	15.2	14.7	16.1	15.7	14.4	7.6	13.0

小児科	入院患者 1 人平均の診療額												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2024年度	103,539	146,195	109,206	119,315	110,509	116,250	118,136	109,163	113,794	103,594	107,140	106,509	113,613

外科	入院患者 1 日平均の月別推移												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2024年度	15.3	11.7	14.0	12.3	12.6	11.6	13.0	12.4	11.8	13.6	11.0	11.8	12.6

外科	入院患者 1 人平均の診療額												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2024年度	84,696	88,670	77,587	86,883	89,962	92,173	84,059	92,555	75,764	74,898	84,861	77,138	84,104

整形外科	入院患者 1 日平均の月別推移												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2024年度	18.0	28.1	26.4	23.5	29.1	22.3	25.2	26.5	23.5	25.3	29.0	29.7	25.6

整形外科	入院患者 1 人平均の診療額												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2024年度	64,396	73,287	67,958	70,842	69,778	70,873	77,417	70,363	70,292	71,339	69,615	65,641	70,150

皮膚科	入院患者 1 日平均の月別推移												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2024年度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

皮膚科	入院患者 1 人平均の診療額												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2024年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

泌尿器科	入院患者 1 日平均の月別推移												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2024年度	5.0	5.4	5.2	5.6	4.9	3.5	4.2	2.2	3.5	3.9	5.5	5.3	4.5

泌尿器科	入院患者 1 人平均の診療額												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2024年度	86,696	68,156	70,374	99,228	81,585	75,286	72,770	136,401	89,822	108,371	100,106	75,814	88,717

産婦人科	入院患者 1 日平均の月別推移												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2024年度	11.3	9.8	10.4	12.5	12.5	12.0	12.8	14.1	14.2	8.0	11.1	12.8	11.8

産婦人科	入院患者 1 人平均の診療額												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2024年度	106,064	112,190	108,337	109,123	108,898	105,467	100,881	96,139	105,795	125,516	115,409	99,047	107,739

眼科	入院患者 1 日平均の月別推移												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2024年度	2.5	2.1	2.1	2.4	1.8	2.0	2.4	1.9	1.7	2.1	2.3	2.3	2.1

眼科	入院患者 1 人平均の診療額												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2024年度	148,235	150,679	152,271	150,071	157,318	131,967	156,023	161,677	152,921	153,007	139,103	152,074	150,446

歯科 口腔外科	入院患者 1 日平均の月別推移												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2024年度	1.0	0.8	0.9	1.1	1.6	1.3	1.5	2.3	1.4	1.5	1.8	1.6	1.4

歯科 口腔外科	入院患者 1 人平均の診療額												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2024年度	116,298	132,071	131,745	126,559	107,364	97,737	100,206	87,951	93,898	96,950	100,336	94,469	107,132

▶ 許可働病床数(212床)に対する利用率 ◀

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2024年度	75.5	71.1	78.4	81.9	80.7	79.1	81.9	81.8	79.1	81.4	77.0	81.9	79.2

▶ 外 来 ◀

全科	外来患者 1 日平均の月別推移												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2024年度	489.7	504.1	508.8	492.9	479.9	538.4	483.7	509.9	518.8	519.4	510.3	502.3	504.9
検診等	24.7	35.1	36.2	29.6	30.8	36.0	40.6	38.2	34.3	37.8	42.6	41.7	35.6
合計	514.4	539.2	545.0	522.5	510.7	574.4	524.3	548.1	553.1	557.2	552.9	544.0	540.5

全科	外来患者 1 人平均の診療額												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2024年度	16,786	17,994	16,710	18,083	17,820	18,211	18,993	18,333	16,988	19,340	18,576	20,345	18,182

内科	外来患者 1 日平均の月別推移												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2024年度	213.6	217.8	224.1	214.1	205.9	235.6	218.7	223.5	232.9	230.3	226.3	225.0	222.3

内科	外来患者 1 人平均の診療額												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2024年度	22,073	25,512	22,528	25,819	24,249	24,982	25,595	25,177	24,570	28,236	27,571	28,178	25,374

小児科	外来患者 1 日平均の月別推移												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2024年度	21.1	25.0	24.3	27.4	28.2	28.9	28.0	30.0	29.3	23.9	21.6	24.4	26.0
検診等	1.5	2.6	3.3	2.8	3.8	3.3	1.7	1.9	1.7	2.0	1.4	1.9	2.3
合計	22.6	27.6	27.6	30.2	32.0	32.2	29.7	31.9	31.0	25.9	23.0	26.3	28.3

小児科	外来患者 1 人平均の診療額												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2024年度	12,347	13,878	15,839	14,981	16,582	18,635	17,382	17,579	4,801	3,760	4,235	32,332	14,363

外科	外来患者 1 日平均の月別推移												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2024年度	41.4	41.5	41.5	39.6	40.4	43.2	32.6	42.7	39.2	40.6	39.8	37.0	40.0
検診等	2.8	6.0	6.7	3.7	4.5	5.4	8.9	8.7	5.4	5.8	8.5	9.2	6.3
合計	44.2	47.5	48.2	43.3	44.9	48.6	41.5	51.4	44.6	46.4	48.3	46.2	46.3

外科	外来患者 1 人平均の診療額												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2024年度	34,504	30,033	27,266	27,326	31,962	30,061	38,945	31,106	28,553	33,120	29,402	32,263	31,212

整形外科	外来患者 1 日平均の月別推移												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2024年度	54.2	53.5	58.1	52.7	50.4	56.8	47.9	53.6	53.6	55.7	54.8	55.9	53.9

整形外科	外来患者 1 人平均の診療額												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2024年度	8,749	9,192	8,528	9,025	8,608	8,715	7,981	8,378	8,219	9,408	8,839	9,455	8,758

皮膚科	外来患者 1 日平均の月別推移												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2024年度	12.0	16.2	15.8	16.1	17.8	19.7	16.5	15.9	16.3	16.2	14.9	13.7	15.9

皮膚科	外来患者 1 人平均の診療額												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2024年度	2,985	2,937	2,835	2,614	3,043	2,829	3,072	2,607	2,489	2,771	2,515	2,725	2,785

泌尿器科	外来患者 1 日平均の月別推移												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2024年度	43.1	46.5	41.0	43.8	43.2	43.4	43.4	42.5	40.9	47.5	45.4	42.7	43.6

泌尿器科	外来患者 1 人平均の診療額												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2024年度	9,880	9,898	11,087	11,873	11,746	12,948	11,835	10,436	10,826	11,441	10,470	10,791	11,103

産婦人科	外来患者 1 日平均の月別推移												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2024年度	33.1	33.1	34.1	32.0	31.2	37.2	35.1	34.7	37.5	36.0	35.9	34.0	34.5
検診等	20.5	26.5	26.2	23.2	22.4	27.2	30.1	27.6	27.1	29.9	32.6	30.6	27.0
合計	53.6	59.6	60.3	55.2	53.6	64.4	65.2	62.3	64.6	65.9	68.5	64.6	61.5

産婦人科	外来患者 1 人平均の診療額												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2024年度	10,236	11,018	11,202	10,239	10,718	10,579	11,146	11,708	10,418	11,690	11,835	10,500	10,941

眼科	外来患者 1 日平均の月別推移												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2024年度	48.1	50.7	51.4	49.1	43.1	56.2	47.5	46.9	49.1	49.8	50.4	50.8	49.4

眼科	外来患者 1 人平均の診療額												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2024年度	6,385	6,897	7,269	6,860	6,407	6,671	7,210	6,807	6,751	7,082	6,969	6,578	6,824

歯科 腔外科	外来患者 1 日平均の月別推移												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2024年度	28.0	26.7	24.9	24.6	27.3	26.9	22.1	26.7	26.6	27.1	27.0	23.8	26.0

歯科 腔外科	外来患者 1 人平均の診療額												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2024年度	8,833	8,478	8,300	8,402	7,983	8,534	7,929	8,466	7,611	9,026	8,146	8,214	8,327

Ⅲ 診 療 部 門



▶ 職員紹介 ◀

腎臓内科：酒井健史 永岡未来
循環器内科：栗原珠美 大木卓巳 朝倉清史
消化器内科：三枝陽一 金明哲 蓼原将良 野島彩希 赤嶺直哉
血液内科：石井隆司 新井翔太 竹下陽介
呼吸器内科：今崎貴生 矢内原智子 西村亜佑美

▶ 2024年度業務内容 ◀

1日平均入院患者数 約 96.2 人（昨年約 89.1 人） 1日平均外来受診患者数 約 222.1 人（昨年約 226.2 人）

▶ 2024年度総括 ◀（詳細は各部門の年報参照）

本年度の目標の一つに入院診療の強化を掲げた。入院業績に重点を置き、病病連携・病診連携の強化と救急車の受入れ増の目標を達成し、入院患者数を大きく伸ばすことができた。外来診療においては、紹介重点医療機関となったことで受診数はやや減少したものの、紹介患者数は着実に増加した。地域の需要に応じた医療を提供することができたと考えている。

▶ 2025年度目標・計画 ◀

入院診療を維持することが目標の一つである。同時に今年度は外来診療・検査部門の強化を目標としたい。

内視鏡室・外来化学療法室の拡張を実施中であり、外来特殊部門の診療実績の強化を図っていく。当院ならではの医療提供体制を充実させることで、地域医療へ貢献していくことを目標としたい。

呼吸器内科

▶ 職員紹介 ◀

常勤医師：今崎貴生、矢内原智子、西村亜佑美、矢那瀬信雄（健診センター所属）

非常勤医師：佐藤崇、猶木克彦、山田薫梨、倉田拓斗、中野真生人（北里大学医学部 呼吸器内科）

▶ 2024年度業務内容 ◀

1日あたり平均入院患者数 24.3人

気管支鏡件数 46件

外来診療

▶ 2024年度総括 ◀

紹介患者さんは増加しており、呼吸器内科での専門的な治療を必要とする患者さんを積極的に受け入れ、入院患者数の増加につながった。

北里大学 呼吸器内科から医師派遣をうけ外来診療も減少することなく継続できた。

気管支鏡件数は減少。

▶ 2025年度目標・計画 ◀

常勤医の異動や交代があり、診療体制が変化するため、診療の質を落とすことなく、入院患者数・外来診療を維持していきたい。

気管支鏡件数が減少している。年間50件以上を維持して、呼吸器内視鏡学会認定関連施設として、肺癌の精査診断も積極的におこなっていきたい。

循環器内科

▶ 職員紹介 ◀

常勤医：栗原珠美（医長）日本循環器学会 循環器専門医、日本不整脈心電学会 不整脈専門医、
日本内科学会 総合内科専門医

大木卓巳（医員）日本循環器学会 循環器専門医、日本内科学会 総合内科専門医

朝倉清史（医員）日本循環器学会 循環器専門医、日本内科学会 総合内科専門医

▶ 2024年度業務内容 ◀

心臓カテーテル検査件数：78 件

心血管インターベンション治療件数：15 件

ペースメーカー治療件数：14 件

▶ 2024年度総括 ◀

カテーテル件数については、ガイドラインに準じてカテーテル検査の適応について考慮したことや、高齢化もあり、昨年度と比較してさらに減少傾向となった。その一方、大学からの高齢心不全患者さんの受け入れやペースメーカー植込み後の患者さんの受け入れを積極的に行っていた。

外来診療については、引き続き逆紹介を積極的にすすめ、近医クリニックからの紹介率が上がるような外来診療をこころがけた。

▶ 2025年度目標・計画 ◀

大学と病診連携をはかり、引き続き高齢心不全患者さんの転院での受け入れや、ペースメーカー植込み後の患者さんについても、当院ペースメーカー外来で継続加療を行っていただけるよう、体制を整えていく。

また引き続き近医クリニックからの紹介率の増加を目標に、地域と連携を図った質の高い医療を提供できるように、診療体制を充実させていく。

血液内科

▶ 職員紹介 ◀

[常勤医師] 石井隆司、新井翔太、木島悠貴（2024年4月～9月）、竹下陽介（2024年10月～2025年3月）

[非常勤医師] 宮崎浩二、堀米佑一、鈴木隆浩教授（北里大学医学部・血液内科学）

▶ 2024年度業務内容 ◀

化学療法件数 入院：97.9件／月、外来：118.2件／月

骨髄穿刺件数：248件／年

入院患者数 495名／年

▶ 2024年度総括 ◀

2024年度も常勤医3名の体制で診療を行った。入院患者数および化学療法の件数、骨髄穿刺件数などの実績も概ね前年度同様で推移した。本年度は新規治療薬が複数上梓された。血液悪性腫瘍の治療のトレンドは殺細胞性抗癌剤から免疫治療にシフトしつつある。当院でも新規治療薬を積極的に採用し、時代に即した治療を提供することができた。一方で新規治療薬は殆どが高額であるため、医療経済的な側面を考慮し慎重に適応を検討することが重要と実感した。

▶ 2025年度目標・計画 ◀

2025年度は大学病院から派遣が増員され、常勤医4名体制となる。より充実した診療を提供できる体制が整う。

北里大学病院血液内科学教室が主導となって、相模原・大和の血液疾患診療体制が充実しつつある。各医療機関のリソースを有効に活用していくことが求められ、今まで以上に密な病病連携が必要となる。また、高齢化の波は相模原でも顕著である。高齢な血液疾患患者さんが増加しており、身体状況・社会背景に応じ適切な治療を提供することが目標である。

小児科・新生児科

▶ 職員紹介 ◀

常勤医：中村龍太（9月30日まで）、渡邊万葉（10月31日まで）、鈴木大輝（10月1日から）、太田まり（11月1日から）、横関祐一郎、今井純好

非常勤医：風張真由美（月2～3回外来、内分泌等）村松秀樹（週1回外来）
安藤寿（月1回循環器疾患等）当直医師として他数名

【NICU・GCU】

NICU：12床（NICU加算対象12床、加算1から2へ変更有）、GCU：12床（GCU加算対象12床）の独立病棟。神奈川県周産期救急システムの県央・北相地域の中核病院（基幹病院：北里大学病院）であり、新生児専門医研修施設である。本院出生新生児の対応はもちろんのこと北里大学病院NICUと連携を取りながら、地域の母子センター医療の一環としての役割をはたしている。2013年4月からのGCU増設により、他院からの受け入れもスムーズに行えるようになった。2014年度は人工呼吸管理患者が増加、2015年10月からはGCU入院患者適応の拡大（B型肝炎母子感染予防、新生児ジストレス有児の経過観察など）を実施。2018年9月からNICU加算対象病床数12床へ増加。新型コロナウイルス感染症出現以降入院患者数、北里大学病院以外からのバックトランスファーは減少した。

2023年度は5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行されたが、院内における感染対策が確立したことにより、他の感染症母体からの出生児の対応もスムーズにできるようになった。

（入院実績）

	2022年度	2023年度	2024年度
入院総数	199	199	198
早産児	95	85	93
呼吸管理	67	75	82
院外出生児	50	48	51
backtransfer	26	15	8

主な疾患：双胎、早産低出生体重児、一過性多呼吸、RDS、特発性高ビリルビン血症、先天性心疾患、その他（頭蓋内出血、染色体異常、感染症）、新生児仮死、B型肝炎母子感染予防、基幹病院などからのbacktransferなど。新型コロナウイルス感染症流行以降北里大学病院以外のbacktransfer減少は継続。呼吸管理する割合は増加。

【一般小児科病棟】

病棟は外科などの混合病棟に属している。2014年8月からの地域包括ケア病棟の新設により、小児科の入院患者は一部を除いて個室での管理となり個室料金・付き添い必要などから思うような入院治療は出来ていないのが現状である。また新型コロナウイルス感染症持続の中、成人新型

コロナ疑似症例が個室を利用することが多くなり、小児科での個室利用は難しかった。

【入院状況】

主な疾患：気管支喘息（喘息性気管支炎）、細気管支炎、痙攣性疾患（熱性痙攣など）、肺炎、敗血症疑い、尿路感染症、髄膜炎、急性胃腸炎・脱水、早産児、一過性多呼吸など

【外 来】

月曜日から金曜日まで午前是一般外来、午後は予約制で専門外来、予防接種、乳児健診を行っている。再診は予約制。2007年7月から午前外来3診体制を開始。2010年10月からは新棟外来に移り、恵まれた新しい環境の中で診療を行っていたが、2022年度は新型コロナウイルス感染症流行持続の影響で外来患者数は減少が持続した。2023年5月の新型コロナウイルス感染症の5類への移行後はマイコプラズマ感染症などの感染症が増加した。

予防接種：相模原市および近隣の市町村から委託を受けている定期予防接種、また自費の任意予防接種の実施。2013年度は四種混合ワクチン開始。2016年度からヒブ・肺炎球菌同時接種開始。2025年度から5種混合開始。

慢性疾患：喘息性疾患、血液疾患などの慢性疾患の定期フォロー。

1ヵ月健診：主に本院出生児を対象。新生児聴覚スクリーニング二次検査など。

循環器：北里大学小児科の小児循環器専門医により月1回実施。

フォローアップ外来：主に本院NICU・GCU退院患者のフォローアップを行い成長を見守っている。

内分泌：独立した外来ではないが、風張医師により、低身長、肥満などの相談を実施。

RSウイルス感染予防のための治療：シナジス・ベイフォータス接種（他施設からの接種依頼も受け入れている）

<地域医療への協力>

- 1、乳幼児健診（相模原市、町田市、座間市からの委託）、乳幼児2次健診など
- 2、予防接種（相模原市、町田市）
- 3、相模原市救急医療の一環としての二次救急担当（月3-4回）
- 4、相模原市小児科医会への参加、症例検討会、講演など

乳 腺 外 科

▶ 職員紹介 ◀

林京子：日本外科学会専門医・指導医、日本乳癌学会乳腺専門医・指導医、日本癌治療認定医機構認定医

藁谷美奈：日本外科学会専門医・指導医、日本乳癌学会乳腺専門医・指導医、臨床遺伝専門医
日本癌治療認定医機構認定医

▶ 業務内容 ◀

乳腺外科は乳腺専門・指導医である林、藁谷が担当し乳癌手術および化学療法、乳腺良性腫瘍手術を扱っている。臨床遺伝専門医でもある藁谷は遺伝カウンセリングも担当しBRCA 遺伝子検査を行っている。外科全体として相模原市乳がん検診には消化器外科の羽廣健仁医師、甲斐田武志医師に協力を得ている。乳腺チームは週1回の術前カンファレンスで手術予定症例検討と今後の治療について話し合う時間を設けている。また病棟看護師とともに入院中の患者の状態や治療方針の確認を行っている。また月1回の乳癌症例検討で臨床検査技師、放射線技師、放射線科医と診断のブラッシュアップを行っている。

▶ 2024年度総括 ◀

2024年度の乳腺の手術件数は154件（前年度124件）と増加した。ホルモン陽性乳癌はCDK4/6阻害剤の登場により術後治療の幅が広がった。トリプルネガティブ乳癌は免疫チェックポイント阻害剤ペンブロリズマブの適応拡大により治療の選択肢が増えた。Her2タイプも皮下注射であるフェスゴの登場により化学療法時間の短縮と簡便さが得られpCR(pathological Complete Response)は変わらず得ることができた。また、エンハーツの登場によりlow Her2タイプの再発乳癌治療の幅が広がった。一方、免疫チェックポイント阻害剤の副作用である間質性肺炎や糖尿病、甲状腺機能異常 肝機能障害など専門外での管理が必要であるが休薬と減量をしながら使用している。新しい薬剤が出る度に化学療法のレジメンの見直し、化学療法委員会委員長である藁谷医師は薬剤師と癌化学療法認定看護師と連携し円滑に進めている。遺伝カウンセリング、遺伝子検査も順調に件数を増し術前のBRCA検査の結果に応じて術式選択ができるようになった。

乳腺に関連する外来数が多いため消化器外科医らにも協力を得ている。甲斐田医師は市乳癌検診の視触診を、羽廣医師はマンモグラフィ読影医資格を維持し読影および手術も手伝っていただいた。相模原市では日本乳癌学会の認定施設2施設のうちの1つが当院である。認定施設更新もあり日本乳癌学会では毎年発表している。2024年5月に近隣に乳腺の専門クリニックができたため針生検数は減少したが乳癌の診断がついて紹介される患者数が多くなった。また、手術と化学療法が必要な患者さんをメインに治療し、ホルモン療法単独になった患者さんを逆紹介し、当院でなければできない治療に特科するという方向転換した。それにより手術、化学療法が必要な患者さんにじっくり向き会える時間を作ることができた。当院の乳腺外科は初診から治療決定までのスピードと安全性を重視し治療を行っている。ガイドラインを熟知した上で、患者さん一人一人にあった治療方針を考え、迅速に治療を提案している。

▶ 2025年度目標・計画 ◀

2025年度も乳腺専門チーム2人は変わらない。2025年度も年間170件を目標としている。針生検数は231例/年（前年は250例）と減った。当院は研究会・学会にも積極的に参加し、最新の知識向上に努め認定施設更新を継続していく。また、トリプルネガティブ乳癌やHer2タイプ乳癌の治療,low Her2患者に対するエンハーツの適応拡大など、患者さんに不利益のないように、大学と連携をとり、最新の治療を提供していく。

消化器外科

▶ 職員紹介 ◀

石井健一郎、羽廣健仁、熊本浩志、甲斐田武志

▶ 業務内容 ◀

2023年度より常勤医4名で日常診療を行った。

肝胆膵疾患は主に石井、甲斐田医師、上部消化管疾患は主に羽廣医師、下部消化管疾患は主に熊本医師、甲斐田医師が中心となって診療にあたった。そのほかヘルニアや急性虫垂炎・腸閉塞・腹膜炎をはじめとした緊急疾患は来院時の状況などにより主治医を決定し診療を行った。内科からの依頼が多いリンパ節生検や中心静脈ポート挿入なども行った。

月曜日から金曜日までの午前は毎日外来初診対応を行いつつ、火曜日、水曜日、金曜日の週3日間は午前および午後に定時手術を行った。

▶ 2024年度総括 ◀

総手術症例：222 症例 全身麻酔症例：173 症例

胃切除：4 症例、結腸・直腸切除：24 症例、胆嚢摘出術：38 症例、ヘルニア：69 症例

その他腹部臓器手術：19 症例、体表手術：51 症例

大腸や胆嚢結石、虫垂炎をはじめ腹壁癒着ヘルニア、腸閉塞に対しても積極的に腹腔鏡手術を行った。虫垂炎に対しては診察時の状況で緊急手術と待機的手術（保存的加療後の予定手術）を選択的に行った。また胆嚢炎に対する手術では高度な癒着が予想される症例に対しては消化器内科と連携し、ERCP 技術を用いて術前にドレナージチューブ挿入し、術中胆管造影を行うことで胆管損傷の予防に努めた。それらの結果、結腸・直腸切除、虫垂切除、胆嚢摘出術では95%以上の症例で腹腔鏡手術が可能であった。

治療の妥当性やより適切な治療法を検討するために消化器内科とは月に2回程度、そして科内では週1回の術前検討会、入院患者のチャートカンファレンス、リハビリカンファレンスを他職種（看護師、リハビリ職員）とともにしている。また外来での乳がん検診や乳腺手術の支援なども行った。また相模原市の夜間・休日の外科二次救急診療においても、一月に3日（4枠）の二次救急診療に従事した。

▶ 2025年度目標・計画 ◀

診療内容としてはこれまでと同様にガイドラインを重視した治療内容の決定を行い、手術も安全性、根治性、低侵襲性を実現できるよう一層の技術の向上、手技の定型化を各々が目指したいと考えている。常勤医4名となり2年目であったが、十分なマンパワーを発揮出来たかと言えば、疑問が残る結果となった。北里大学病院からは大学病院外科では手術枠を確保することが困難な良性疾患（胆石、虫垂炎、ヘルニア）を中心に多くの患者さんを御紹介いただいで

いるが、今後はさらに近隣のクリニック、病院などともより深く連携するために地域連携を重視した当院の外科の特色なども研究会を通じて周知する取り組みなども行い、当院の強みを生かして地域医療を担える外科としての役割を果たしていきたい。

整形外科

▶ 職員紹介 ◀

常勤医

松久孝行（主任部長 リハビリテーション室長） 整形外科専門医 肩関節外科、上肢・スポーツ整形外科

岡厚 整形外科専門医 股関節外科、一般整形外科

佐藤完（4月～9月）、小野寺洋介（10月～3月） 一般整形外科

非常勤医

佐藤完、安部崇子、瀧澤美沙子、小野寺洋介、村山将也（月、火、水）

高江洲真、内山駿治（木）

（金）

専門診 股関節診（1回 / 2か月） 中村正則 昭和大学整形外科客員教授

▶ 業務内容 ◀

外来診療では午前のみであるが1日54人の診療を行った。手術は月曜日から金曜日まで毎日行っており、2024年度は499件の手術を行った。手術の内訳は、①人工股関節置換術 50件、②人工膝関節置換術 24件、③リバーズ型人工肩関節置換術 8件、④肩関節鏡視下手術 29件、⑤人工骨頭置換術 25件、⑥骨折その他 363件

▶ 2024年度総括 ◀

2024年度はあまり影響はなかった。外来患者数は1日平均54人（前年度57人）、入院患者数は月平均25.6人（前年度26.4人）であり、また手術件数499件（前年度454件）と増加した。松久医師は肩関節外科が専門であることから、肩関節鏡視下手術とリバーズ型人工肩関節置換術、岡医師は股関節外科が専門であることから人工股関節置換術を中心に手術を行った。更に救急搬送や近隣の医療機関からの患者を積極的に受け入れることができた。

▶ 2025年度目標・計画 ◀

救急患者の受け入れ体制を強化し、救急車の受け入れ件数の更なる増加を目指します。また肩関節疾患、股関節疾患をはじめとする関節疾患や外傷に対して専門的な手術治療を行うことにより、紹介患者の増加を目指していきます。これまでと同様に大学病院や地域との連携を図り、質の高い安定した医療を提供していくことを目標とします。

産婦人科（周産期母子医療センター）

職員紹介

- [常勤] 望月純子 産婦人科専門医・指導医 周産期（母体・胎児）専門医 臨床遺伝専門医
 石川隆三 産婦人科専門医
 松澤晃代 産婦人科専門医・指導医 周産期（母胎・胎児）専門医（2025/1～非常勤）
 吉原一
- [研修医] 小倉瑞希（2023/4/1～9/30）、山崎智子（2023/10/1～2023/3/31）
- [非常勤] 産婦人科：落合大吾（北里大学医学部産婦人科学教授）、海野信也、
 関口和企、吉村嘉広、山崎優、五島裕之、平田岳史（以上北里）、秦ひろか（開業医）
- 麻酔科：日向俊輔（北里大学医学部麻酔科学准教授）、奥富俊之（聖マリアンナ大）

業務内容

分娩母体数は前年比で7.5%減少し400件を割り込んだ。2024年8月から月・火曜日限定で誘発無痛分娩を開始し、初産婦：32件、経産婦：9件で無痛分娩をおこなった。8件の希望者は行えなかった。

神奈川県県央北相地区の地域周産期母子医療センターとして例年より多くの早産症例を受け入れた。しかし、当院から北里大学病院に緊急母体搬送になった1例が脳性麻痺となり療養中である。

2024年度総括

[入院]

分娩児数	407（双胎14）
分娩母体数	393
帝王切開	119（30%）
母体搬送依頼	80
母体搬送受入	57（71%）
逆搬送	7

早産児	計76	出生児体重	
28～30w	5	1000g未満	0
31～33w	26	1000-1500g	8
34～36w	45	1500-2000g	29
		2000-2500g	46

[無痛分娩]

無痛分娩症例	41
初産	32
経産	9

無痛分娩後帝王切開	2（5%）
無痛分娩吸引／鉗子	24（58%）
再誘導	5（12%）

[外来]

遺伝カウンセリング外来	67
NIPT検査実施	43
羊水検査	1

2025年度目標・計画

- 母児の安全性の確保
 夜間・休日のスタッフの少ない時間帯での産科診療レベルを確保するために、産科を専門とする医師を配するよう努める
- 分娩数の維持
 初産婦の無痛分娩希望者が増える傾向にある。安全を確保しながら満足度の高い無痛分娩を提供する

産婦人科（婦人科腫瘍センター）

▶ 職員紹介 ◀

常勤医 新井正秀

非常勤 上坊敏子、望月愛郎、大野勉、中村基寛

後期研修医 小倉瑞季（4～9月）、山崎智子（10～3月）

▶ 業務内容 ◀

原則毎日外来を行っています。手術については良性疾患を中心に開腹手術、腹腔鏡手術、経膈的手術を行っています。

なお相模原市の日曜祝日の2次救急を月1～2回担当しています。

▶ 2024年度総括 ◀

手術件数（2024年1月から12月）は130件でした。

その内訳は、開腹手術37件（子宮全摘34件）、腹腔鏡手術34件（子宮全摘15件、卵巣手術19件）、膈式子宮全摘11件、子宮頸部円錐切除術35件、子宮鏡手術7件、その他6件でした。

傾向として開腹手術と腹腔鏡手術の件数が同じ位の頻度です。

▶ 2025年度目標・計画 ◀

全国的な分娩数減少しているため、その分婦人科領域での治療件数を増やせればと考えております。

腎臓内科/血液浄化センター

▶ 職員紹介 ◀

腎臓内科医師：酒井健史、永岡未来、青山東五、渡會梨紗子、鎌田美美

看護師：看護師長 小林由紀子

森田美恵子、田中陽子、渡邊由美子、岡本弘美、亀崎みどり

臨床工学技士：係長 折田祥吾

久保大一郎、住谷千宗、平川智子、薄葉新太郎、渡部紗己、高田海斗

▶ 業務内容 ◀

保存期慢性腎臓病患者さんの外来管理、かかりつけ医との病診連携、腎代替療法の説明と決定への支援腎臓病患者さんの原因精査と必要に応じて高次医療機関への紹介と連携

当院での外来通院維持透析、透析導入患者さんの入院、外来維持透析患者さんの緊急入院。

また他の内科や外科、整形外科において検査・手術入院が必要な維持透析患者さんの透析管理を他の透析施設と連携を図り実施している。

透析ベッド数は最大 30 床で、月水金は午前、午後の 2 クール、火木土は午前の 1 クールで実施している。

2022 年度 透析件数：7,601 件（外来：7,093 件、入院：435 件）

2023 年度 透析件数：7,622 件（外来：6,802 件、入院：762 件）

2024 年度 透析件数：6,937 件（外来：6,323 件、入院：614 件）

血液吸着療法：46 件、持続緩徐血液浄化療法：0 件、腹水濾過濃縮再静注療法：0 件

透析導入患者数：17 名 他院よりの維持透析受け入れ件数：35 名

▶ 2024年度総括 ◀

腎代替療法の説明、決定を含めた包括的な保存期慢性腎臓病患者さんの外来管理を行い、必要に応じて腎生検が可能な高次医療機関への紹介を行った。

また、血液透析導入と外来と入院中の維持血液透析管理、透析患者さんの周術期管理を行った。前年度と同様、シャント観察とフットケアの評価も継続、定期的なケースカンファレンスを交え、患者さんの情報を多職種で共有、患者さんの病態、生活スタイル、家族・社会背景にあった透析治療、食事療法、患者指導を継続した。

今年度より当院、北里大学病院循環器内科と連携を行い、閉塞性動脈硬化症に対するレオカーナを用いた LDL 吸着療法を開始した。

▶ 2025年度目標・計画 ◀

慢性腎臓病患者さんのかかりつけ医との病診連携を推進する。

また、腎代替療法の説明と決定支援を引き続き行っていくが、腎臓病患者さんも高齢化が顕著であり、保存的腎臓療法を含め、患者さん個人にあわせた治療の選択を支援する。

透析分野においては、患者さんの高齢化がいつそう進んできており、引き続き多職種でのカンファレンスを交え、個々に合わせた透析療法を目指す。

▶ 職員紹介 ◀

常勤医 春日井絃子 高橋実希子 久納舞子（2024.4 まで）

非常勤医 横関祐佳子（月曜外来） 龍井苑子（金曜外来） 池田哲也（未熟児網膜症診療）

庄司信行（緑内障外来・白内障手術） 清水公也（白内障手術）

▶ 業務内容 ◀

2024 年度は、医師 2 名体制での診療を安定して維持することができた。外来診療は、午前は初診と再診外来、午後は完全予約制で外来、検査、処置を行った。NICU での未熟児網膜症診療は山王病院アイセンターの池田医師による専門的診察を行った。手術は主に白内障手術を火曜日午前と木曜日午後に行った。

隔月で北里大学病院眼科庄司教授による緑内障外来と白内障手術を行い、不定期で山王病院アイセンター長（前北里大学眼科教授）の清水公也教授による白内障手術も行った。

視能訓練士は常勤 2 名と非常勤職員で、眼科外来業務と健康管理センターで検査を行ったため、眼科外来での検査枠を拡充することができた。

▶ 2024年度総括 ◀

2024 年度は医師 2 名の安定した体制で、大きな事故やトラブルもなく診療を行うことができた。白内障手術件数は増加し目標達成することができた。視能訓練士の勤務の安定化による外来検査枠拡充により、外来単価を上昇させることができた。院内勉強会やミーティングの機会は状況を見て行い、日々スタッフ間でのコミュニケーションをとることで、円滑で質の高い外来診療を行うことに努めた。

▶ 2025年度目標・計画 ◀

2025 年度は、白内障手術件数をさらに増加させることを目標に、最大の合併症である術後眼内炎を起こさないように十分に留意しながら、満足度の高い手術治療を提供できるよう努めたい。外来に関しては、引き続き丁寧な説明を心がけていくとともに、さらなる検査枠拡充についても検討しながら診療したい。北里大学眼科庄司教授による緑内障診療も継続し、今後も北里大学病院眼科との連携をより密にして、地域のニーズに答えられる、安全で質の高い医療を提供していきたいと考えている。

歯科口腔外科

▶ 職員紹介 ◀

常勤医：医長 山下雅子、山川道代

非常勤医：野口忠秀

衛生士：山本玲、青島泰子

▶ 業務内容 ◀

新患者総数	1,516 人
紹介患者数	1,307 人
院内他科依頼数	85 件
全身麻酔手術件数	175 件
静脈内鎮静手術件数	17 件
周術期口腔機能管理 新患者数	168 件

▶ 2024年度総括 ◀

全身麻酔による手術件数はコロナ感染流行期前より増加し、安定した入院患者の確保をすることができた。関連の大学病院からの手術応援医師の派遣も継続することができ、難易度の高い手術や全身麻酔で抜歯を希望する患者さんに対し希望に沿ったかつ早い日程での手術枠を案内することができた。外来の処置である手術件数についても安定して保持することができた。急患の受け入れ、また、一昨年度より強化している逆紹介の徹底により、逆紹介率も上がった。地域医療と連携を取ることで患者数の増を維持することができた。

▶ 2025年度目標・計画 ◀

2025年度は紹介患者の増加、全身麻酔での手術件数術の増加に努める。院内の周術期口腔管理の拡大に努め、逆紹介の向上を図る。安定した歯科口腔外科医の確保により診療の回転を向上させ、歯科口腔外科として専門性を生かした診療を構築していく。引き続き、歯科医師と衛生士、看護師やコメディカルと情報を共有しながら安全な診療を行っていく。歯科口腔外科医師の指導や学会発表、論文投稿も積極的に行っていく研修施設としても充実させる。地域連携を図り、地域医療に貢献し、患者さんには安全でより良い医療サービスを提供していく。

泌尿器科

▶ 職員紹介 ◀

常勤医 常勤医 平井祥司 高田治子

非常勤医 入江啓（月曜日）田畑健一（火曜日）中村真利江（木曜日）塩野裕（金曜日）

▶ 業務内容 ◀

1ヶ月平均外来患者数	43.1人
1ヶ月平均入院患者数	4.4人
開腹手術	4件（膀胱全摘 1件 腎部分切除 2件 その他 1）
腹腔鏡下根治的腎摘除術	3件
腹腔鏡下腎尿管全摘+暴行部分切除	3件
腹腔鏡下副腎摘除術	1件
TUR-P	8件
TUR-Bt	80件
WAVE	18件
高位精巣摘除術	5件
成人の小手術 陰嚢水腫等	22件

▶ 2024年度総括 ◀

入院患者 外来患者 手術件数ともにほぼ横ばいで推移している。

前立腺肥大症の超低侵襲治療である WAVE 治療を導入し 18 件施行した 全例良好な成績をおさめている

化学療法を行った患者数はほぼ前年と同程度数。

引き続き小手術や内視鏡手術から開腹手術まで広い範囲を網羅することができた。

外来の検査機器や診察台などの老朽化に対し今期も作新できなかった

▶ 2025年度目標・計画 ◀

外来診療では泌尿器科としてのスペシャリティをスタッフ一同更に高めたいとの考えに変わりはない。相模原市内でいち早く WAVE 治療を導入し成績も良好なためさらに症例数を伸ばしたい

尿路上皮がんに対するエンホルツマブ+ペンブロリズマブが良好な臨床成績を示しているため今年度は導入予定である

当科は北里大学泌尿器科からの派遣を受け診療体制を整えているため、大学病院の後方支援は引き続き充実させたい。

麻 醉 科

▶ 職員紹介 ◀

- 金澤正浩 (麻酔科専門医・指導医) 部長
藏重千絵 (麻酔科専門医・指導医) 副部長
行木香寿代 (麻酔科専門医・指導医) 医長
嶋尾淳子 (麻酔科専門医) 医長

▶ 業務内容 ◀

- 2024年度 麻酔科管理手術件数 1404件 (総手術件数 2072件)
うち全身麻酔件数 1329件 (硬膜外麻酔・伝達麻酔・脊髄くも膜下麻酔併用 292件)

▶ 2024年度総括 ◀

2024年度も北里大学麻酔科学教室からご支援をいただき、円滑な手術室運営と安全な麻酔管理を行うことができた。岡本教授並びに医局員の先生方に深く感謝申し上げます。

麻酔科管理件数と全身麻酔件数は、2023年度と比べてそれぞれ62件、117件増加した。特に末梢神経ブロックを併用した症例が増加した。一方で麻酔科医・専任の看護師・薬剤師をメンバーとする術後疼痛管理チーム(APS)による対応件数は170件と昨年度より30件少なくなった。これは硬膜外麻酔を併用する症例が減少したためと考えられた。今後はまだAPSを未施行の診療科にも広げていく方針である。

▶ 2025年度目標・計画 ◀

2025年度も業務内容の見直しと改善をし、全身麻酔件数(115件/月)・術後疼痛管理チームによるAPS症例の増加(250件)を目標とする。また適応がある患者さんには超音波ガイド下末梢神経ブロックを積極的に施行し、術後鎮痛のさらなる改善を図る。引き続き安全な麻酔管理を行っていけるよう、診療各科の先生やコメディカルの方々とコミュニケーションをとり、協力しながら業務を行う。

消化器内科／内視鏡室

▶ 職員紹介 ◀

消化器内科常勤医師：三枝陽一、金明哲、蓼原将良、井廻佳奈（2024年8月～育休）、野島彩希（2024年10月～）、赤嶺直哉

呼吸器内科常勤医師：今崎貴生、矢内原智子、西村亜佑美

消化器内科非常勤医師：三橋利温、山崎真希、入江文、奥脇興介、和田拓也、升谷寛以、渡辺真郁、玉置明寛、花岡太郎、石崎あや那

看護師：小林由紀子、今井弘恵、天野保子、池田舞、阿部結実、黒川愛吏、中村亜歩

臨床工学技士：久保大一郎、薄葉新太郎

看護助手：馬場秀子、川村麻貴子

内視鏡洗浄スタッフ：3名

▶ 業務内容 ◀（検査件数）

外来診療として、内科初診は毎日消化器内科医師が診療にあたり対応した。内視鏡検査では、午前中に上部内視鏡検査を行い、午後に下部内視鏡検査、ESDやERCPなどの治療内視鏡を行った。

上部内視鏡：7,696件、下部内視鏡：1,464件（うちポリペクトミー：703件）、気管支鏡：46件、EUS：264件、ESD：68件、ERCP：144件、EUS-FNAB：23件、緊急止血術：85件、PEG交換：10件、PEG造設：1件、その他：イレウス管留置、経皮経肝胆囊吸引穿刺など。

地域連携室対応件数：153件、化学療法：143件（外来119件、入院24件）。

▶ 2024年度総括 ◀

2023年度と比較し、内視鏡検査件数はやや減少している。北里大学病院より後期研修医を受け入れ指導にあたり、学会発表、論文作成を行った。月3回の消化器二次応需に対応し、夜間・休日の緊急内視鏡治療を行った。他院からの緊急処置検査を積極的に受けた。CF、ポリペクトミー、ERCPのパスを更新し、看護師との指示の共有が円滑に進むよう努めた。内視鏡室で麻薬管理を行い、入院患者さんの麻薬使用、麻薬伝票の管理をスムーズに行えるようにした。

▶ 2025年度目標・計画 ◀

2025年度は内視鏡室の改装工事を予定している。工事中も検査の質を保ち、可能な限り検査件数を減らさないように業務を行っていく。透視室の新設後は内視鏡検査件数の増加を目指す。リカバリー室のベッド増加に伴い麻酔下内視鏡検査を積極的に行っていく。消化器内科常勤医師5人中3人が異動、交代となるが、引き続き質の高い医療の提供を心がける。

外来化学療法室

委員会委員

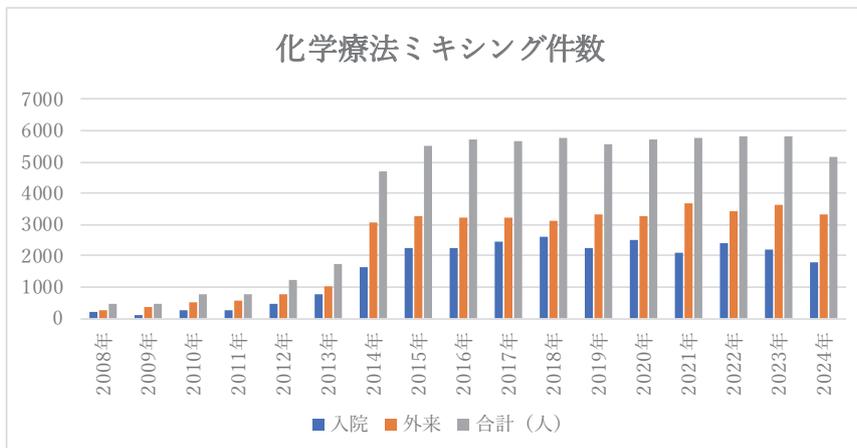
委員長：藁谷美奈（日本乳癌学会乳癌専門医、日本癌治療認定医機構認定医）

副委員長：大塚知信（薬剤部部長）

庶務：水野知子（薬剤部）

委員：石井隆司（血液内科専門医）、平井祥司（日本泌尿器科学会専門医）、石井健一郎（日本外科学会専門医）、新井正秀（婦人科腫瘍専門医）、矢内原智子（日本呼吸器学会専門医）、蓼原将良（日本消化器病学会専門医）、大嶋美加子（癌化学療法認定看護師）、小林由紀子（外来看護師）、関根貴子（病棟看護師）、佐山美奈子（病棟看護師）、岡村綾子（医事課代理）

2024年度総括



- ① 入院（青）、外来（赤）、合計（緑）のミキシングの数を上表に表す。今年度は入院件数が減少した。数年来課題となっていた外来化療枠の増設については、来年度に化療センター新設予定となっている。
- ② 化療センター新設にあたり運用方法も変更し、より効率化を図る予定である。化学療法センター IV Ns. による点滴ルート確保が前提にあり、円滑な運営に向けて来年度には準備が整うよう看護部にも調整を依頼し、来年度からの運用開始を期待する。
- ③ 最新の各種ガイドラインと照らし合わせ、近隣病院の実情も参考とし、血管外漏出の対応を根本的に見直した。
- ④ 「最新の治療を提供する」をモットーに、新レジメンは化学療法委員会全員で確認している。特に薬剤師が繊細かつ細心の注意を払ったレジメン作成に従事している。
- ⑤ 既存のレジメンでも、無駄なく安全に施行できるよう、要望に応じて審議し対応した。

2025年度目標・計画

どのような状況でもそれぞれの学会が発信するガイドラインを熟知し、患者さんに不利益のないよう、医師、薬剤師や看護師と共に安全第一に治療が遂行できるよう、更に改善を図る。また、医療資源の無駄を極力減らして病院の利益にもつながるように努める。

IV 醫療技術部門



薬 剤 部

▶ 職員紹介 ◀

薬剤部長：大塚知信（R6.3.31 採用、R6.4.1 配置換）、主任薬剤師：北原みゆき
 薬 剤 師：水野知子、長島仁美、朝倉祐紀、矢沢尚枝（R6.5.13 育休から復帰）、中村花、
 吉田美欧、徳留千江、石戸健太郎、阿部航平（R7.2.1 採用）
 派遣薬剤師：保泉有里（R6.5.27 まで産休・育休取得労働者の代替要員業務、R6.5.28 から薬剤
 部業務全般）
 補助事務員：安藤紗織、田辺美悠

▶ 業務内容 ◀

		令和6年度 (a)	令和5年度 (b)	増減 (a - b)
処方箋枚数	入院	37,387	37,044	343
	外来	4,567	4,875	▲ 308
院外処方箋発行率 (%)		92.3	92.2	0.1
一般名処方箋発行率 (%)		39.8	27.8	12
注射処方箋枚数	入院	55,572	52,069	3,503
	外来	14,281	14,634	▲ 353
薬剤管理指導	実施件数	6,159	5,128	1,031
	算定件数	4,431	3,766	665
病棟薬剤業務実施加算1件数		9,282	8,835	447
持参薬確認表作成件数		3,423	3,134	289
薬剤情報提供料件数		1,500	1,576	▲ 76
抗がん剤ミキシング件数	入院	1,812	2,176	▲ 364
	外来	3,329	3,635	▲ 306
術後疼痛管理チーム加算件数		171	185	▲ 14
二次性骨折予防継続管理料件数		84	41	43
褥瘡対策（薬学的管理計画作成）件数		11,078	8,585	2,493
医薬品購入金額（円）※1		1,130,133,499.00	1,026,801,293.00	103,332,206.00
年度末在庫金額（円）※1		25,849,208.13	31,863,043.85	▲ 6,013,836
後発医薬品比率 (%) ※2		95.2	95.8	▲ 0.6

※1 薬剤部集計分（税抜）：内用薬、注射薬、外用薬、漢方薬、試薬、医療用器具

※2 3月期の数量割合

▶ 2024年度総括 ◀

2024年度は、薬剤管理指導業務の実施件数および算定件数は前年度比それぞれ20.1%増、17.7%増となった。医薬品カートセット、持参薬鑑別は依頼件数が年々増える中、薬剤管理指導業務に対して病棟薬剤師が経験を積み重ねて効率良く適切に指導したこと、そして病棟薬剤師をフォローしている他のメンバーの業務への取り組み方の工夫と努力が要因であると考えている。一般名処方箋発行率もマスター整備を進め、診療部の協力も得て3月単月では50%を超えて昨年度より大幅に増加した。

一方、医薬品等購入費は前年度より約1億円増加しているが、年度末在庫金額および期限切れ等医薬品廃棄金額は前年度分を下回っており、適正な在庫管理が実施できていると考える。また、「褥瘡対策に関する診療計画書における薬学的管理に関する事項」作成業務、「二次性骨

折予防継続管理料」業務にも積極的に参画し算定件数増に貢献できた。

▶ 2025年度目標・計画 ◀

新規発売の抗がん薬は一般的に薬価が高く、医薬品等購入費が増加する一因となっている。抗がん薬を含む高額な医薬品については、後発医薬品が発売され次第適応を確認しつつ切り替えを検討し、購入金額の減少に努めていきたい。また、有効期限切れ薬品が発生しないよう適切な在庫管理を行い、期限切迫医薬品についてはその一覧表を診療部へ提示し使用促進に向け協力を依頼していく。

昨年度 2025 年 2 月に薬剤師 1 名が補充され、副薬剤部長と主任薬剤師 1 名が欠員のままであるが、派遣薬剤師 1 名を加えてようやく定数の 12 名体制で業務を行えるようになった。2025 年度は、電子処方箋発行に向けた対応準備、化学療法室拡張に伴う薬剤関連業務の再構築を先ずは優先し、並行して薬剤業務の更なる効率化を図り、病棟薬剤業務を充実させるとともにチーム医療に積極的に参画して患者さんに安心して安全な医療を提供できるよう努めていきたい。

臨床検査部

職員紹介

部長：羽廣健仁 技師長：近江亜矢子
 主任：高橋深雪 小林芳宏 久高真澄
 技師：石田麻里 宮尾舞 金子恵美 濱谷正孝 中村杏奈 斎藤実咲
 武藤恵 秋田朝美 竹内敢楠 平本佳菜子 古家伊織 高内美雅
 高橋典子
 非常勤技師：村上裕美子 赤妻禎子 馬場秀子 川村麻貴子
 招聘検査技師：風間日出子 金沢富紀 関谷美恵 豊島和子 石塚真由美 西原由美
 藤井悦子 奥脇繁子 早坂尚子 宮澤由美 佐々木雅子 篠田典明
 星野望 佐久間佳乃

業務内容

2024年度 実績	診療部門		健診部門	
	検査部	外部委託	検査部	外部委託
尿 検 査	24,415	576	54,183	3,335
糞 便 検 査	381	0	59,657	0
血 液 検 査	142,874	1,247	61,097	0
生 化 学 検 査	775,922	9,859	586,119	6,215
免疫血清検査	76,961	15,780	32,282	3,148
穿刺液検査	233	22	0	0
細菌検査	16	11,102	0	21
病理組織検査	0	4,664	0	607
細胞診検査	0	5,234	0	4,327
生理検査	心電図	7,139	0	44,572
	超音波	6,906	0	14,532
	その他	3,829	0	40,626
計	958,003	48,484	893,068	17,653
合 計	1,006,487		910,721	

2024年度総括

- ・FMS方式での共同運営事業者がSRLからBMLとなり、機器やシステムが4月1日より大きく変更となった。各部門の協力のもと、検査運営は軌道に乗ることができた。
- ・新生児の聴覚スクリーニング検査をOAE（自動耳音響放射）からAABR（自動調整脳幹反応）に変更した。
- ・検査総数の前年対比は診療部門、健診部門ともに95%であった。
 検体検査：診療部門で95% 健診部門は94%と昨年から減少傾向であった。
 生理検査：診療部門で101%とほぼ同等であった。血管エコーは予約枠増により125%となった。健診部門は98%とやや減少傾向であった。
- ・産休・育休 1名（～9月）

2025年度目標・計画

- 検査業務の啓発：検査についての知識の共有化を図る。
- 円滑な検査室運営：担当部署内知識・技術の更新。マニュアル整備
- 検査部門の業績向上：業務効率化・コスト削減。状況把握（利益性の把握）

放射線部

▶ 職員紹介 ◀

部長：山根拓郎	技師長：鈴木達弥	副技師長：長友和樹
主任：須貝貴志	主任：喜田裕憲	主任：阿部菜穂子
技師：川瀬実菜子	技師：小原貴喜	技師：恩蔵舞子
技師：折原あゆみ	技師：木村圭吾	技師：尾西宏紀
技師：吉田聖良	技師：八木沢療	技師：瀬戸優汰
技師：大滝美幸	技師：石渡雄二	招聘技師：丹治あゆみ
招聘技師：成田由樹子	招聘技師：村上香織	受付事務：佐藤幸子

▶ 業務内容 ◀

診療部門は院内全科に携わり、一般撮影・透視検査・CT・MRI・マンモグラフィ・心臓カテーテル検査および治療・骨密度測定検査・歯科口腔外科撮影・ポータブル撮影・術中透視および撮影等を行っています。

健診部門は院内の健康管理センターおよび院外の巡回健診の業務に携わっています。院内外ともに胸部撮影と胃部透視検査を行い、院内ではマンモグラフィおよび注腸検査も行っています。

PACS（医療画像保存通信システム）による画像配信システムが確立され、すべての画像がデジタル保存されています。また、各種認定資格取得技師（医療画像情報精度管理士、放射線管理士、放射線機器管理士、放射線被ばく相談員、検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師など）も多数在籍しています。

《 2024年度取得認定資格および取得者 》

『医療画像情報精度管理士』 木村圭吾、尾西宏紀、吉田聖良（新規）、喜田裕憲（更新）

『放射線管理士』 尾西宏紀、八木沢療、瀬戸優汰（新規）、木村圭吾（更新）

『放射線機器管理士』 尾西宏紀、八木沢療、瀬戸優汰（新規）

『放射線被ばく相談員』 吉田聖良（新規）

『検診マンモグラフィ撮影技術認定』 川瀬実菜子、恩蔵舞子（更新）

『X線CT認定技師』 喜田裕憲（更新）

『骨粗鬆症マネージャー』 石渡雄二（更新）

▶ 2024年度総括 ◀

診療部門の撮影および検査件数は2019年度までは毎年10%前後の増加傾向にありました。しかし新型コロナウイルス感染症の影響を最大に受けた2020年度は、診療部門では前年度と同数程度、健診部門では前年度を大きく下回ってしまいました。その後2022年度に入っても新型コロナウイルス感染症は引き続き収束する様子がないままでしたが、2022年度以降、2023年度および2024年度も診療部門および健診部門ともにコロナ前と同程度まで回復することができています。

2024年度は多種類の認定資格を多数取得することができました。これにより放射線部門の検査および画像等の質の担保および向上に繋げることができています。

▶ 2025年度目標・計画 ◀

- ・ 経営状況悪化からの回復（前年度を上回る撮影および検査件数の確保）
- ・ 積極的な研修会参加および各種認定資格の取得による検査および画像等の質の担保および向上

リハビリテーション室

▶ 職員紹介 ◀

リハビリテーション室長：松久孝行

理学療法士長：欠員

副理学療法士長：葦澤香菜子

主任理学療法士：佐々木孝修 箕輪俊也

理学療法士：小川絵美 北村大空 田中智子 吉富桃子 穴井温人

作業療法士：遠峯綾子

助手：小野純子 家村鈴子

▶ 業務内容 ◀

	2024 年度	2023 年度	前年度比
総単位数 (単位)	30,699	24,450	125.6%
入院	24,446	19,339	126.4%
外来	6,253	5,111	122.3%
出来高総額 (円)	58,317,780	42,553,850	137.0%
入院	46,757,890	33,105,770	141.2%
外来	11,559,890	9,448,080	122.4%
包括病棟平均実施単位	2.05	2.07	99.0%

施設基準

運動器リハビリテーション料 (Ⅰ)、呼吸器リハビリテーション料 (Ⅰ)、脳血管疾患等リハビリテーション料 (Ⅱ)、廃用症候群リハビリテーション料 (Ⅱ)、がん患者リハビリテーション料

▶ 2024年度総括 ◀

2024 年度の実績は 2023 年度と比較すると、総単位数、出来高総額共に上回ることができました。職員の異動により定数で稼働することができ、特に加算や指導料を積極的に算定したことが入院出来高額の大幅な向上につながったと考えます。

▶ 2025年度目標・計画 ◀

1. スタッフ個々の医療技術のアップデート：学会、研修会、勉強会等への参加をさらに促進し、個々のレベルアップを図る
2. 業務実績の向上：セラピスト 1 人当たりの平均取得単位数を向上させていく

視能訓練士

▶ 職員紹介 ◀

立花美穂 視能訓練士外来主任
 石川美和子 視能訓練士
 馬場育子 嘱託招聘視能訓練士

▶ 業務内容 ◀

眼科外来検査：視力検査、屈折検査、眼圧検査、角膜曲率半径検査、角膜内皮検査、眼筋機能検査、両眼視機能検査、色覚検査、視野検査、眼底カメラ、眼軸長検査、OCT（光干渉断層計）、フリッカー検査、角膜厚測定検査、小児眼鏡処方
 健診センター：視力検査、眼圧検査、眼底カメラ、色覚検査、調節検査

○ 2024 年度検査実績

・眼科外来

(件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
視力	671	695	738	777	661	791	778	659	741	727	711	791	8,740
眼圧	588	593	639	645	554	693	667	576	638	611	621	692	7,517
屈折	141	140	132	165	107	134	112	131	97	127	91	88	1,465
屈折（散瞳後）	0	0	0	1	3	0	0	0	1	0	0	0	5
眼鏡	0	0	0	1	2	0	0	0	1	0	0	0	4
近方視力	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	1	1	5
角膜曲率	264	275	237	284	211	233	262	209	259	213	211	205	2,863
角膜内皮	54	72	49	65	42	41	65	35	59	47	47	50	626
精密視野	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
眼筋機能	36	43	32	46	27	23	51	22	33	32	32	25	402
両眼視	0	1	0	3	0	0	0	0	1	0	0	0	5
色覚	0	1	0	2	3	1	1	2	1	1	0	0	12
視野（GP）	12	21	20	20	13	16	17	26	15	13	15	18	206
視野（HFA）	134	148	163	180	158	153	162	146	142	151	134	155	1,826
眼底カメラ	12	15	16	24	9	18	26	8	16	12	17	8	181
IOLマスター	27	36	26	32	15	16	34	19	27	22	27	18	299
フリッカー	2	4	1	2	3	0	4	2	4	1	3	0	26
ヘス	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2
パキ	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
Aモード	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
OCT	260	310	344	337	257	317	337	273	308	309	287	316	3,655
合計	2,201	2,354	2,399	2,585	2,066	2,437	2,516	2,108	2,344	2,267	2,197	2,367	27,841

・健診センター

(件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
視力	1,297	1,385	1,514	1,777	1,772	1,662	1,917	1,759	1,745	1,560	1,513	1,858	19,759
眼圧	344	524	646	747	666	651	775	657	702	608	563	652	7,535
眼底カメラ	676	808	823	942	885	850	1,045	900	945	841	807	891	10,413
色覚	10	9	4	1	4	25	2	0	0	0	0	9	64
近方視力	0	0	0	1		0	0	0	0	0	0	0	1
両眼視力	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	3
調節	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
合計	2,328	2,730	2,987	3,468	3,327	3,191	3,739	3,316	3,392	3,009	2,883	3,410	37,780

▶ 2024年度総括 ◀

常勤が一人産休育休明けで復職し、午前中から視能訓練士が随時2名で検査の対応ができるようになりました。

午前中の健診センターの検査を、看護師・臨床検査技師・視能訓練士と曜日ごとに振り分け検査をおこないました。

外来眼科検査件数が昨年の検査総数から108%増加しました

▶ 2025年度目標・計画 ◀

午前から視能訓練士が随時2名で検査の対応をしているので、今まで以上に滞りなく検査を進めていきたいと思えます。また、眼科検査枠の増設をしたので検査件数も増え予約も取りやすくなると思われれます。

栄養管理室

職員紹介

栄養管理室長：三枝陽一

副栄養管理室長：林康子

管理栄養士：安保敏明 後町美里 洗浄職員：岩崎知美

(株) グリーンヘルスケアサービス 所長：太田亜美

管理栄養士：2名 栄養士：5名 調理師：2名 盛付・洗浄パート：24名

業務内容

		R6年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均	R5年度平均	R4年度平均
一般食	食数	6,694	6,908	7,473	6,816	7,488	7,119	8,165	7,719	7,570	7,216	6,262	8,295	87,725	7,310	6,629	5,906
	構成比(%)	56.5	60.6	59.6	53.6	60.6	61.2	64.0	63.7	60.9	59.2	57.7	61.7	-	59.9	57.1	54.8
特別食	食数	4,631	3,968	4,502	5,237	4,193	3,969	3,926	3,708	4,060	4,554	3,932	4,617	51,297	4,275	4,310	4,179
	構成比(%)	39.0	34.8	35.9	41.1	33.9	34.1	30.8	30.6	32.7	37.4	36.3	34.3	-	35.1	37.1	38.8
分娩食	食数	531	517	563	675	672	543	662	692	802	411	651	540	7,259	605	673	692
	構成比(%)	4.5	4.5	4.5	5.3	5.5	4.7	5.2	5.7	6.4	3.4	6.0	4.0	-	5.0	5.8	6.4
計		11,856	11,393	12,538	12,728	12,353	11,631	12,753	12,119	12,432	12,181	10,845	13,452	146,281	12,190	11,612	10,777
特別食加算算定率(%)		33.4	24.6	26.4	31.9	25.6	28.3	25.5	25.4	29.2	32.9	31.8	27.2	-	28.5	-	-
祝膳	食数	24	31	31	36	33	30	34	38	43	17	36	30	383	32	35	39
ドック食	食数	218	343	439	520	467	319	608	497	499	432	405	473	5,220	435	537	538
栄養指導 件数	入院	52	40	41	60	52	68	63	58	62	64	59	54	673	56.1	57	64
	外来	18	21	20	17	9	12	10	6	7	4	2	5	131	10.9	26	29
計		70	61	61	77	61	80	73	64	69	68	61	59	804	67.0	83	93
管理栄養士1人当たり件数		22.3	19.7	19.3	24.7	28.0	39.0	35.0	31.5	34.0	33.0	29.0	29.5	-	28.8	27.2	30.2
内科	入院	45	27	36	45	31	46	42	42	43	45	39	37	478	39.8	42	52
	外来	14	19	19	14	7	10	7	5	7	3	2	3	110	9.2	23	26
外科	入院	3	6	2	6	9	11	11	10	8	7	6	7	86	7.2	8	7
	外来	4	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0.4	1	1
整形外科	入院	3	7	3	8	7	7	6	4	8	4	11	6	74	6.2	5	4
	外来	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.0	0	0
泌尿器科	入院	1	0	0	1	5	4	4	2	3	8	3	4	35	2.9	2	1
	外来	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0.2	1	1
産科・婦人科	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0
	外来	0	0	1	1	1	1	3	1	0	0	0	0	8	0.7	1	1
小児科	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0
	外来	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	2	5	0.4	0	0
入院栄養指導科1【初回】算定率(%)		20.6	20.2	21.5	25.1	23.0	30.7	25.5	23.3	25.4	29.4	27.5	29.0	-	25.1	24.3	-
栄養管理 計画書	作成件数	410	380	346	437	395	319	419	415	397	412	374	379	4,683	390	379	386
	NST																
NST	算定	6	10	6	10	5	8	8	7	2	6	4	3	75	6.3	4	4
	非算定	0	1	2	1	1	0	0	1	2	1	0	4	13	1.1	1	2

2024年度総括

- ・特定給食施設等管理者及び担当者講習会(オンライン形式)に参加し、「給食施設の衛生管理について」・「給食施設における災害時の食の備えへの取り組みについて」学んだ。
- ・月1回以上の行事食を提供し、患者給食の向上に努めた。
- ・入院栄養指導は、全診療科で実施可能な体制を整えた。

2025年度目標・計画

- ・年2回の食事アンケート実施により、献立の改善に繋げ月1回以上の行事食へ反映させる。
- ・入院及び外来栄養指導件数の増加に向けて、医師へのアナウンスを強化する。
- ・NST算定件数の増加に向けて、多職種連携をはかる。

ME室（臨床工学室）

職員紹介

室長 酒井健史

臨床工学技士

係長 折田祥悟

技士 久保大一郎、住谷千宗、薄葉新太郎、平川智子、渡部紗己、高田海斗

業務内容

2024年度 臨床工学室 業務件数

業務内容	機器	点検内容	合計	業務内容	機器	点検内容	合計
血液浄化業務	人工透析		6323	人工呼吸器業務	VELA・C2	使用中点検	15
	血漿交換療法		0			終業時点検	5
	血液吸着療法		46			回路交換	0
	持続的緩除式血液浄化療法		0		S L E 2000	使用中点検	70
	透析機器定期点検		60			終業時点検	22
	透析患者監視装置	日常点検	6323		S i p a p	使用中点検	241
	水処理装置	日常点検	313			終業時点検	33
	供給装置	日常点検	313			M E 機器管理業務	輸液ポンプ
心臓カテーテル検査業務	診断		84	シリンジポンプ	終業時点検		784
	治療		21	除細動器	日常点検		1620
	P M埋め込み		9		定期点検		6
	緊急		4	A E D	日常点検		810
閉鎖式保育器業務	使用中点検		1658	経皮ガスモニタ	定期点検		24
	終業時点検		201	腹水濃縮業務		0	
上部内視鏡総件数		7696	ERCP			144	
下部内視鏡総件数		1464	気管支内視鏡総件数			46	
麻酔器日常点検		1350	腹腔鏡 始業・使用中点検			329	

▶ 2024年度総括 ◀

臨床工学技士7名体制で、血液浄化業務・心臓カテーテル業務・人工呼吸器業務・ME機器管理業務・閉鎖式保育器業務・内視鏡業務・手術室腹腔鏡業務・ペースメーカー業務を努めました。血液浄化センターでは、エコー下穿刺の指導やLDL吸着療法の件数増加へ向けて準備を行い、開始することができました。病棟にてメーカーが行う医療ガス点検に立ち会い、看護師の負担軽減に貢献しました。

循環器関連業務としては、メーカー同行のもとPMチェックを積極的に行いました。

内視鏡業務では、上・下部内視鏡、気管支鏡、胆、膵内視鏡などすべての検査治療にチームの一員として参画し、時間外における緊急内視鏡にもすべて対応して、内視鏡チームの円滑な運営に貢献しました。手術室業務では、除細動器や麻酔器の点検の他に内視鏡機器を使用する手術で機器操作を行いました。北里大学の血液浄化療法の臨床実習も10年目となり、学生の体調管理の確認や感染予防対策を行い、6名を受け入れ、無事実習を終えることができました。

▶ 2025年度目標・計画 ◀

血液浄化センターでは、業務を効率的に行えるよう環境整備を行い、患者監視装置のメンテナンスに重点を置きたいと思います。ペースメーカー業務では、PM外来を行えるよう他職種と協力して対応したいと思います。内視鏡室の拡張の準備と、内視鏡業務の行える技士を増やすため、教育活動にも力を入れていきたい。

V 看 護 部 門



▶ 職員紹介 ◀

看護師長：今井純子

副看護師長：今野詩織（4月～9月）

秋元愛（10月～3月）

看護職員：28名　看護助手：3名　夜勤専従看護師3名

▶ 業務内容 ◀

診療科：内科（消化器、呼吸器、循環器、腎臓内科、血液内科、神経内科、膠原病科）、

外科、整形外科、小児科、眼科、皮膚科、産科・婦人科、泌尿器科、歯科口腔外科

二次救急告示：内科、小児科、外科、消化器、産婦人科

中央外来処置室：5床、急患室：3床、感染隔離床：1床

各科外来における外来受診者の診察介助及び検査・処置の実施と介助。救急外来搬送患者の対応や外来輸血、各種検診、在宅療養支援、継続看護対象患者への支援などを行っている。また、検査・治療部門と協働し、夜間休日における二次救急に対応し患者の受け入れを行っている。

2024年度　外来輸血件数：971件

2024年度　救急車受入数：1979件

▶ 2024年度総括 ◀

日々の外来診療をこなしながら、前年に引き続き「救急」「継続看護」「5S」の3グループに分かれ、より質の高い看護を目指し活動を行った。救急チームによるデモンストレーションや認定看護師による急変時の研修はより実践に近い体験が出来た。継続看護チームはHOT患者と血液内科患者の看護計画に沿った継続的な関わりや退院後初回外来患者へのアプローチにより在宅療養の支援を行った。5Sチームは経費削減、整理整頓を行い職場環境を整えた。チーム活動を通じて、スタッフ間の交流も深められている。

▶ 2025年度目標・計画 ◀

チーム活動の継続による外来看護の質の向上

業務改善による人、物の有効活用

手術室・中央材料室

▶ 職員紹介 ◀

看護師長：豊家亜矢 副看護師長：平口正則、川井眞純 常勤看護師 9 名

▶ 2024年度業務内容 ◀

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
消化器外科	28	21	16	18	21	18	23	18	12	16	18	13	222
乳腺外科	9	10	8	11	12	10	14	14	14	14	9	11	136
整形外科	28	57	35	34	55	40	49	35	34	43	45	44	499
婦人科	15	9	12	12	17	14	14	11	11	17	11	11	154
産科	10	11	8	12	13	6	11	12	17	8	10	7	125
泌尿器科	21	15	15	22	21	9	15	15	11	21	20	23	208
口腔外科	12	15	11	17	16	14	20	19	15	17	17	19	192
眼科	51	46	44	52	41	34	54	42	39	45	39	49	536
合計	174	184	149	178	196	145	200	166	153	181	169	177	2072
全身麻酔合計	107	125	90	104	145	98	127	99	99	113	109	102	1329

- ・手術優先枠に基づく手術室の運営と調整（予定手術の実施・緊急手術の受け入れと実施など）
- ・手術看護の実践と質の向上への取り組み（術前訪問の実施・情報の共有・勉強会の開催など）

▶ 2024年度総括 ◀

手術件数は2023年度の1974件から2072件に増加（前年比+104.9%）し、その内全身麻酔は月平均110.8件で、病院目標である110件/月以上を達成した。2025年度の病院目標は115件/月以上であることから、今後はより効率的な稼働が求められる。目標達成に向けて、2月の手術室運営委員会では次年度の手術枠の見直しを行った。2024年度は看護師の後進育成に力をいれたが、緊急度の高い手術または追加の手術依頼に迅速に対応できる体制を目指し、引き続き新入職員の教育を課題の一つとしていく。また、2024年度は時間内及び時間外ともに緊急手術が増加し、2023年度の5.4%から前年比で+1.2%の6.5%となった。しかし、看護師の超過勤務は2023年度の+1.1%増に抑えることができた。これは、職場環境の改善として、フレックス勤務を取り入れた結果と考える。今後も待機業務を担う手術室看護師の負担を減らすために、働きやすい職場環境の整備に努め、離職を防止し、手術室看護の質を向上させていく。

▶ 2025年度目標・計画 ◀

- ① 全身麻酔の手術件数を115件/月以上にする
- ② 全身麻酔患者の術前訪問実施率を向上させる
- ③ 医療材料の準備不足（滅菌保証）に関連したインシデント報告を2024年度の報告件数以下にする

3 A 病棟

▶ 職員紹介 ◀

看護師長：杉崎香恵

副看護師長：田村瑞枝、兵藤美佳、西村梓

主任看護師：吉田恵巳

看護職員：助産師 11 名、看護師 9 名、嘱託助産師 2 名、嘱託看護師 1 名、看護助手 4 名

▶ 業務内容 ◀

許可病床：38 床

診療科：産科、婦人科、内科、外科、整形外科、口腔外科、眼科（女性混合病棟）

実績：分娩取り扱い件数 393 件（うち帝王切開 119 件、双胎分娩 14 件）

無痛分娩 41 件

母体搬送 57 件 産後ケア入院 78 件

▶ 2024年度総括 ◀

分娩件数は前年度よりさらに低下した。相模原市全体の出生数も低下し続けていて、少子化の煽りが強く出ている。8月より、無痛分娩を開始した。スタッフの知識と技術の底上げと、研修など実施し、受け入れ態勢を整えた。まだまだ、修正箇所が多いが、スタッフも努力し、無痛分娩に取り組んでいる。今年度は、無痛分娩に立ち会う助産師のスキルアップを目指していく。5年ぶりに、両親学級も再開することが出来た。お昼寝アートのサービスも継続して実施。患者や患者家族から好評であり、継続している。産後ケア入院の受け入れも問い合わせが多く、前年度の倍の入院を受けることが出来た。メンタルや体力回復のため、サービス内容を変化させながら、産後のママ達の支援につなぐことができたと考える。

▶ 2025年度目標・計画 ◀

- ① 入院患者受け入れの増員、病床稼働率 80%以上
- ② 無痛分娩の知識、技術の向上をスタッフ全体で取り組んでいく
- ③ 働きやすい職場環境（業務整理の実施）

以上の目標を掲げ、幅広い年齢層の全ての患者さんのニーズを捉えた看護を展開し、女性のライフステージを支え、安全で質の高い看護の提供を目指します。産後ママの頼れる病棟になれるように、産後ケア内容の充実を図り、ニーズと期待に応えられるように、知識と技術の向上に努めます。

スタッフ1人1人を大切に、1人1人が役割発揮し、問題提起と解決ができるように、心理的安全性の高い病棟を目指します。

4 A 病棟

▶ 職員紹介 ◀

看護師長：芦萱和美 副看護師長：太田千尋

常勤看護師：24名（非常勤看護師：1名） 看護助手：6名（うち夜勤専従2名・障害者雇用1名）

▶ 業務内容 ◀

入院診療科：内科 894件（93.7%）【循環器：292人 消化器：301人 腎臓：72人 呼吸器：153人 血液：72人】 他科（泌尿器科、整形外科、外科、口腔外科） 63件（6.3%）

許可病床：39床（HCU5床・陰圧室5床）看護基準：7：1

予約入院：365名 緊急入院：600名 感染症患者：86名

平均病床稼働率：89.6% 平均在院日数：12.3%

▶ 2024年度総括 ◀

これまでと同様に、循環器・腎臓・消化器など内科疾患患者を中心とした重症患者や緊急入院を多く受け入れている病棟です。陰圧室を5床保有し、COVID-19、結核疑いなどの感染症患者の受け入れも行っています。緊急入院受け入れのために、急性期を脱し病状が安定した患者を他病棟に受け入れてもらい、受け入れ体勢を整えるとともに、他科の検査・手術入院も一部受け入れています。入院患者65歳以上の患者割合は79.8%と高く、高齢患者に対する治療も増えています。そのことから、入院時から退院を考えた介入ができるように、医師、MSW、退院調整看護師と密に連絡を取り合いながら調整をすすめています。患者さんに寄り添い、思いに沿った個別性のあるケアができるよう、カンファレンスを充実させ日々関りを深めています。重症ケア、ターミナルケア、心不全指導など個々の能力を発揮しながら日々の看護実践を行いケアの充実につとめています。また、新人教育～3年目のフォロー体制の充実、スタッフ教育にも力を入れ、お互い協力し合い学び高めあえる環境となっています。緊急入院が多い中、お互いが協力し、一人一人がお互いを思いやり助け合いながら働きやすい環境に務めています。

▶ 2025年度目標・計画 ◀

1. 地域の救急を受け入れるための効率的な病床管理
2. 患者さん思いの安全・安心な医療の提供
3. 看護の質の向上、働き続けられる環境づくり

地域救急を受け入れ、安定的に入院を受け入れることができるよう病床管理をおこない、早期の退院調整や介入による在院日数を短縮できるようにつとめていきます。また、患者さんが安心して退院後の生活を送ることができるよう退院指導の充実と地域との連携、高齢化社会に対して急性期における認知症患者の対応能力や終末期の患者ケアに対する学習の充実を図ることで、安全で安心できる療養生活を送ることができるよう取り組んでいきます。

4 B 病棟

▶ 職員紹介 ◀

看護師長：関根貴子

副看護師長：阪東美雪

看護師：26名

看護助手：8名

▶ 業務内容 ◀

許可病床数：38床（無菌室8床・陰圧室2床を含む）

看護基準：7：1

入院診療科：内科（主に呼吸器、血液内科を中心とする）

平均病床利用率：86.4%

平均病床稼働率：91.2%

平均在院日数：15.6日

予約入院数：382名 緊急入院数：518名

化学療法件数（延べ）：1218件

輸血件数：980件

▶ 2024年度総括 ◀

4B病棟は血液内科、呼吸器内科を中心に消化器内科、消化器外科、乳腺外科、泌尿器科など、院内の化学療法患者の看護を担っており、日々変化する新薬・治療に対する理解を深めるため積極的に学習会に参加し、看護の質が高められるよう日々努めています。終末期看護、家族看護により患者さんと家族の身体的、精神的ケア、サポートが行えるように他職種間で連携を図りながら、その人らしい望む生活が送れるように個々に寄り添う看護を提供しています。

▶ 2025年度目標・計画 ◀

1. 健全経営への貢献
2. 安全な医療の提供
3. 看護師の質向上

5 A 病棟

▶ 職員紹介 ◀

看護師長：岩水志津子

副看護師長：島袋璃紗 今野詩織

主任看護師：久米優子 武澤瞳

看護職員：17名 看護補助者：5名 夜勤専従看護補助者：2名

▶ 業務内容 ◀

許可病床数 37床

看護基準 7:1

入院診療科：整形外科・消化器外科・乳腺外科・泌尿器科・歯科口腔外科・小児科・眼科・内科

二次応需：外科・整形外科・小児科

入院患者総数	1332名	手術件数	934件
予約入院件数	933件	整形外科	371件
緊急入院件数	377件	消化器外科	188件
平均在院日数	8.3日	乳腺外科	128件
平均病床利用率	83%	泌尿器科	181件
平均看護必要度①	40.8%	歯科口腔外科	66件
平均看護必要度②	48.9%	全身麻酔手術件数	877件

▶ 2024年度総括 ◀

5A病棟は整形外科・消化器外科・乳腺外科・泌尿器科・歯科口腔外科といった周術期の患者の主とし、化学療法や終末期、小児科や内科など多岐にわたって対応する混合病棟となっている。診療科の知識・技術の習得、向上に努め、プログラムの見直しを行いながら後輩指導、育成に努めた。インシデント事例の対策の共有を元に、感性を高められるようカンファレンスを行い、再発防止への取り組みを強化した。二次性骨折予防、排尿自立支援への取り組みもすすめている。

▶ 2025年度目標・計画 ◀

患者さんを主体とした看護の提供が出来るよう、一緒に考え成長していく事ができるような看護師の育成に努めていく。

5 B 病棟

▶ 職員紹介 ◀

看護職員構成：看護師長 井出早百合
副看護師長 滝愛 豊亮一郎
主任 相原悦子
看護師 23 名 看護助手 7 名

▶ 業務内容 ◀

許可病床数 34 床 看護基準 13 : 1
在宅復帰率 81.1%（短期滞在手術等基本料 1 の患者を除く） 病床利用率 89.4%
自院転入割合 58.2%（短期滞在手術等基本料 1 の患者を除く）
自宅からの入院 47%（短期滞在手術等基本料 1 の患者を除く）
自宅等からの緊急入院受け入れ 111 名
科別入棟患者数 内科 377 名 整形外科 130 名 外科 27 名 泌尿器科 17 名 眼科 244 名
合計 795 名

▶ 2024年度総括 ◀

2024 年度も平均病床利用率 89.4%と前年度を上回った。今年度は、診療報酬の改定により短期滞在手術等基本料 1 の患者が対象から除外され、一般病棟からの転棟率 6 割 5 分未満を目指し、積極的に緊急入院の受け入れを行った。実績として自宅からの入棟は入院全体の 4 割以上と目標の 2 割を上回り、緊急入院受け入れは年間 111 名と前年度を大きく上回ることができた。

前年度に引き続き、申し送りの短縮やカンファレンスの充実、入院受け入れマニュアルの作成などを行い緊急入院の受け入れ体制の強化を行った。また、今年度は退院後の生活を考慮し ADL の維持・向上を目的として理学療法士、看護補助者と連携し、集団ケアによるリハビリを実施した。集団ケアを通して、豊かな表情がみられ、活動意欲の向上にも繋がった患者もおり、在宅復帰へ向け生活リズムを整える効果もあるため継続して実施していきたい。

▶ 2025年度目標・計画 ◀

1. 経営への参画（診療報酬改定に伴った病棟での受け入れ体制の構築）
 - ①在宅復帰率の保持
 - ②一般病棟からの転棟割合
 - ③自宅等からの緊急入院受け入れ増に対応できるようタスクシフト、業務改善の推進を図る
2. 安全な入院環境の提供に取り組む

▶ 職員紹介 ◀

看護師長：早乙女珠美

副看護師長：GCU 鈴木楓

看護主任：NICU 渡部由記、

看護スタッフ：NICU 助産師 1名 看護師 20名（新生児集中ケア認定看護師 1名、
集中ケア認定看護師 1名）

GCU 助産師 2名、看護師 8名（新生児集中ケア認定看護師 1名）

▶ 業務内容 ◀

地域周産期母子センターとして、当院出生だけでなく、神奈川県県央北相地区で出生した急性期治療が必要な新生児の受け入れを行っています。主な対象は、早産、低出生体重児、呼吸器管理を必要とする児です。児の発達・発育に応じた支援や、育児指導、患者家族を中心としたファミリーセンタードケアを行っています。

許可病床数 NICU : 12床、GCU : 14床

看護基準 NICU 3対1、GCU 6対1

2024年度実績

入院総数：198件（内訳：院内出生 137件、院外出生 61件）

院外出生内訳：バックトランスファ 8件、新生児搬送 53件

▶ 2024年度総括 ◀

安全な医療・看護を提供するために、昨年度に続き医師・認定看護師の協力を得て勉強会を開催しました。また、ファミリーセンタードケア、危険予知トレーニング、感染、災害、接遇、連携の6チームに分かれ活動をしました。チーム活動を通し、一人ひとりが看護の課題解決に向けて自主的に行動し、看護の質向上にむけて取り組みました。

▶ 2025年度目標・計画 ◀

1. 安全文化の醸成：安全について考える環境作りとコミュニケーションの活性化
2. 連携：関連部署、多職種との協働
3. 人材育成：自律性の向上と学ぶ意欲への支援

専門分野に特化した教育に力を入れ、安全で質の高い急性期治療の提供と、親子関係を形成するために何が出来るかを常に考え、ご家族それぞれに寄り添える看護師を育成していきます。また看護の成果を実感できるやりがいのある職場環境を目指します。

検査治療部門

▶ 職員紹介 ◀

看護師長：小林由紀子

副看護師長：今井弘恵 大嶋美加子

看護職員：常勤看護師 7 名、非常勤看護師 7 名、内視鏡洗浄スタッフ 2 名

▶ 業務内容 ◀

- ・安全で安心な検査治療の実施ができる運営と緊急の検査治療に対する積極的な受け入れ
- ・検査治療に関わる看護の実践と質の向上への取り組み（情報共有・勉強会実施・患者指導の実施）
- ・放射線科造影検査における看護師による静脈注射の実施（CT/MRI）

▶ 2024年度総括 ◀

近年の高齢化、慢性疾患の増加などにより、在宅医療が推進される中、外来部門の診療や看護はますます重要になってきており、検査治療部門もその一角を担っている。多様な背景をもつ患者へ対応するために、検査治療部門は、血液浄化センター、外来化学療法室、内視鏡室のそれぞれの専門性を持ちつつ、一つ一つが小さな部署のため協力体制をとり業務を行ってきました。また、合同カンファレンスを行うことで部署間の交流を図りながら、お互いの役割についての理解を深めてきました。それぞれが専門性の高い部署であるため、応援体制を確立することは難しいですが、引き続き協力体制の強化と維持をしていきたいと考える。さらに医師の業務のタスクシェアとして実施している CT と MRI の造影検査の静脈穿刺は、実施可能な IV ナースレベル 3 を取得する教育プログラムを計画的に行い、実施できる看護師を増加させていく。

▶ 2025年度目標・計画 ◀

これから増加していく癌患者に対応すべく、外来化学療法室を 8 床から 14 床へ増床予定である。また、内視鏡室は、セデーション下での治療の拡大と健診センター患者の内視鏡件数を増加させること、ERCP などの治療を迅速に対応できる環境として、拡大工事を実施する。そのため、患者の獲得と看護の質を落とさず提供できるよう努めていきたいと考える。

VI 事 務 部 門



総務企画課

▶ 職員紹介 ◀

課長：岡村綾子
課長補佐：松永邦夫
総務係長：西山洋介
給与係長：三嶋隆也
事務員：伊藤李花子・竹之下由果・加藤岳
非常勤事務員：中島悠子・松浦実・佐藤淳一
非常勤用務員：佐藤和枝
非常勤電話交換手：工藤里子・片岡美奈子
非常勤清掃員：岸田博隆

▶ 業務内容 ◀

人事（採用、退職）、給与（決定、計算、支給、税務）、労務管理（出退勤、社会保険関係）、福利厚生、調査統計など

▶ 2024年度総括 ◀

2024年度は、医師の働き方改革をスタートした年であり、ICカードによる出退勤管理システムを導入して対応を行いました。

この他、ISO認証にかかる内部監査、会計検査院による実地検査の指摘事項について改善に取り組んだ一年でありました。

これら全ての業務を滞りなく終えることができたのは、偏に課員一人ひとりが努力しスキルを向上させ、業務を互いに補い合った結果の成果であります。

▶ 2025年度目標・計画 ◀

- ・健全に業務を遂行するため、就業規則をはじめ各種規程に基づいた手続き・管理を行い、難しい課題についても課内及び他部署とコミュニケーションを図り解決に努める。
- ・法令等を遵守し、法令改正等があった場合は速やかに対応するし、業務改善に取り組む。
- ・監査等で指摘された事項等については、速やかに改善し再発防止に取り組む。
- ・課内の業務について、主担当以外の業務についても知識を取得し、軽微な事項については対応できるように努める。

経 理 課

▶ 職員紹介 ◀

課長：薄田浩司

課長補佐：松本直也

経理係長：高梨裕輝

契約係長：(課長補佐併任)

課員経理係：米今裕子、福澤幸代

課員契約係：浅沼小百合、藤森香帆

非常勤営繕手：佐藤雄希

電算室：西山洋介 (併任：総務係長)、大野透、盛島良介

▶ 業務内容 ◀

経理係：財務諸表等の作成、保管及び公表に関する事。現金、預金等の出納及び管理に関する事。診療収益等の管理に関する事。予算及び決算に関する事。債権及び債務の総括管理に関する事。会計記録の確認等に関する事。

契約係：契約に関する事(業務委託、保守委託、売買、賃借契約)。建物・附属設備・車両等の営繕・工事及び保守管理に関する事。医療機器の購入・修理及び保守管理に関する事。消耗物品、診療材料等の購入・管理に関する事(医薬品・給食用材料を除く)。電気設備、空調設備、給排水設備及び消防設備等、各種建物設備の保守管理に関する事。清掃及び廃棄物(医療廃棄物、一般及び産業廃棄物)の管理に関する事。防火・防災に関する事。医療ガスの管理に関する事。駐車場(院内・院外)に関する事。

電算室：医療情報システムの企画・導入・構築・運用・管理・セキュリティ・障害対応等に関する事。

▶ 2024年度総括 ◀

経理係：令和6年度は、人事異動により新体制にて業務遂行となった。日々の取引を記録し、伝票仕分け入力、帳簿確認、新型コロナ対応前や前月との収益比較、費用の適正化に向け関係者への聞き取りを実施するなどし、収支報告書の作成を行った。決算や収支報告書を作成することで、病院の財務状況を把握、材料の棚卸し状況や減価償却費の計算確認などを行い、病院経営に寄与するよう遂行した。

契約係：令和6年度は、経理係同様に人事異動により新体制でのスタートとなった。契約業務において、これまで同様にJCHO 調達等合理化計画に基づき、材料、医療機器等の調達や委託業務の契約を入札に付し、競争下において適正な価格、並びに適切な契約に努めた。修繕、物品購入においては、内容や価格比較を市場価格に見合う交渉を行い、費用の削減に努め、病院経営に寄与するよう遂行した。

電算室：診療報酬改定による各種システム改修対応、電子処方箋導入対応を行い、電子カルテ及び各部門システムの安定稼働に向けた取組みの立案、運用の見直し、不具合対策対応等を遂行した。

▶ 2025年度目標・計画 ◀

費用の上昇を抑制、削減することを第1に考え、諸物価の高騰に対する価格の抑制に力を注ぐ。また、在庫管理の徹底・契約のさらなる適正化等を図り、最適な各種の提案ができる事務を目指す。そのため、経理に関する諸規程、マニュアル等を熟読し、知識の向上・習得による個々の能力向上を図る。

電子カルテ、各種部門システムの更新に関する計画の立案と遂行。

医 事 課

▶ 職員紹介 ◀

課長：織田修治（事務部長併任）

▶ 業務内容 ◀

当課は、総合受付（会計）、外来クランク（外来算定業務）、病棟クランク、入院算定業務について、業務委託しており、スムーズな情報交換を図りつつ業務管理を行った。また、不安を抱えた患者さん（その家族）と医師をはじめとする各医療専門職との架け橋として、待ち時間の短縮や会計等の医事サービスの提供を心掛けた。

▶ 2024年度総括 ◀

病院職員（総合職）がいないことも関係し、医事関連業務の委託化が進み、より一層の委託業者との情報共有が必要となった。

そのため、病院職員、委託職員が協力し、患者サービスの充実に力を入れた。また、日常的に行ってきた他医療機関との交流により、診療報酬改定時の情報交換もスムーズに行い、施設基準の新規届出・経過措置の対応を行うことができた。

▶ 2025年度目標・計画 ◀

- ・経営の安定への貢献：病床利用率確保、上昇、新規入院患者獲得への取り組み、地域包括ケア病棟への転棟割合の管理及び関与、経常利益の増・費用の削減、事業収益規模の変動等を勘案した適正人員の見直し
- ・地域連携の強化：地域医療支援病院取得を見据えると共に、紹介受診重点医療機関として、継続した紹介・逆紹介率の向上等諸要件の確立支援への取り組み
- ・職場環境の改善：コンプライアンスの遵守、業務改善による超過勤務の抑制・平準化の徹底、働き方の見直し超過勤務の廃止、業務手順書等マニュアルの整備・充実

診療情報管理室

▶ 職員紹介 ◀

専門職 鹿島一智

室員 深澤加寿子、大川恵美子、宮川楓、福澤幸世

▶ 業務内容 ◀

DPC コーディング、退院患者調査管理（様式1、様式3、様式4、入外EFファイル、Dファイル、Kファイル、Hファイルの確認・作成）、入院診療情報管理、全国がん登録、全退院患者の病歴管理、退院時要約2週間以内・30日以内完成率の管理、転科時要約の管理、各種依頼統計データ作成、電子カルテデータ抽出及び匿名化作業、全退院患者の持参薬登録、病院情報の公表、診断群分類研究支援機構へのDPCデータ提供、診療記録の量的監査・質的監査、NCD登録（外科・泌尿器科）、スキャン取り込みリストの管理、地域包括ケア病棟転棟者リスト作成、カルテ開示 等

▶ 2024年度総括 ◀

室員数の減少と診療報酬改定が重なり、既存業務の登録内容や項目が増えるなど変化が大きかった。

その中でも必須業務に関しては滞りなく業務を遂行でき、既存業務の手順書の見直しも行った。

また、病院指標は今年度よりセコム SMASH のデータを用いて作成を行い、業務の簡略化をすることができた。

一部、業務が遅滞しているものがあるため、次年度の目標とする。

▶ 2025年度目標・計画 ◀

全退院患者の病歴管理について遅滞なく登録業務を進めていく。

診療情報管理士業務のみならず、関連部署の業務知識も必要になることから、より一層多職種との情報共有・連携の強化を図る。

業務体制は引き続き、個人個人の業務内容や理解に偏りが無いよう情報や手順の共有を強化していく。

医事課 医師事務作業補助員

▶ 職員紹介 ◀

常勤：中辻あゆみ、星山直美、座間未希、樋口和佳奈 非常勤：遠藤香
(派遣職員) 佐藤永奈、高橋久美子、久保英子、龍智子、阿部香澄

▶ 業務内容 ◀

■ 文書作成補助

- ・退院時（転科時）要約代行作成（内科・外科・産婦人科・小児科・眼科・泌尿器科・歯科
口腔外科）
- ・保険会社診断書等の書類代行作成（全科）
- ・紹介状返信代行作成（産婦人科・歯科口腔外科）

■ 代行入力

- ・検査オーダー代行入力（内科・血液浄化センター・外科・地域連携室）
- ・検査説明（内科・母子センター・外科・血液浄化センター）

■ 医療の質向上に資する事務作業

- ・NCD登録（循環器内科）
- ・周産期登録、産科集計、婦人科手術台帳集計（産婦人科）
- ・大腸癌手術症例登録（外科）
- ・JOANR登録（整形外科）

■ 診療補助【内科】

■ その他

- ・PACS読影レポート既読管理業務
- ・内視鏡予約キャンセル管理
- ・医師への電子カルテ操作
- ・主治医意見書の文書管理

▶ 2024年度総括 ◀

医師への電子カルテ操作の依頼のあった診療科全て対応ができた。業務に必要な知識獲得のため毎月の勉強会を継続し全12回行う事ができ、今後も継続していきたい。

- ・診断書等書類代行作成件数：月平均478件（前年度 月平均469件）
- ・退院時（転科時）要約代行作成件数：月平均307件（前年度 月平均295件）

▶ 2025年度目標・計画 ◀

- ・診療録代行入力、診療情報提供書の代行入力を予定している。
- ・部署内の勉強会を継続し、知識習得と業務の質の向上に繋げていきたい。

安全管理室

▶ 職員紹介 ◀

安全管理部長：林京子（医師）、室長：新井正秀（医師）

感染管理担当：今井純好（ICD、感染防止対策委員長）、井上光子（ICN、副委員長）、他 19 名
医療安全管理者：土橋ひろみ（看護）

安全管理室構成員：栗原珠美（医師）、山下雅子（医師）須貝貴志（医療放射線管理責任者代行）、大塚知信（医薬品安全管理責任者）平川智子（医療機器管理責任者代行）、小林由紀子（看護師長）、高橋努（事務）、大川恵美子（事務）、米今裕子（事務）

▶ 業務内容 ◀

（医療安全）

- ・ 医療安全地域連携加算 1 ・ 加算 2 の地域連携施設とのカンファレンス、安全ラウンド（7 回 / 年）
- ・ 医療安全管理指針、安全管理細則規定、院内暴力マニュアル、安全管理マニュアル（ポケット版）、肺血栓塞栓症深部静脈血栓症予防規定の修正 ・ 安全予防委員会と連携し院内安全ラウンド（毎月）
- ・ 医療安全対策実施状況の確認・指導・助言 ・ 新入職員研修・看護部医療安全研修
- ・ 全職員への教育

（感染管理）

- ・ 院内感染発症の分析と再発防止の検討
- ・ 感染症発症時の職員、患者への感染対策の確認と指示
- ・ 定期的に院内ラウンドを実施し、感染防止対策の実施状況の確認、指導、助言
- ・ 院内における抗菌薬使用の管理 ・ 感染防止対策マニュアルの見直し、改訂
- ・ 全職員への教育 ・ 他施設との感染防止カンファレンスに参加（年 4 回）

▶ 2024年度総括 ◀

（医療安全）今年度は院内職員研修を感染防止対策委員会と合同で 2 回実施した。背景には全職員対象の研修であるが 100% となるのが難しい状況があり、医療安全研修以外にも様々な研修があり参加する職員も時間を割いて参加するため負担がある。そこで感染対策防止対策委員会と共同して研修を行うことで職員の研修参加への負担感の軽減につながった。しかし医師の診察状況等で研修参加が難しく参加率 100% とはいかない状況があった。今後は未参加者への声かけを徹底し、参加率 100% を目指す。

（感染管理）今年度は院内の感染症発生時に速やかな対応ができるように、職員が実施する対応方法を感染防止対策マニュアルに網羅し、周知した。その結果 8 月に内科病棟において COVID-19 のアウトブレイクが発生したが、迅速に適正な対応ができた。また、アウトブレイクに至るまでの経緯として手指衛生の課題も明らかになった。日頃から手指衛生を効果的に実施することが重要であり、感染症発生時に感染拡大を最小限にとどめるためにも積極的な改善活動が必要である。

▶ 2025年度目標・計画 ◀

（医療安全） 1. ヒヤリハット件数の増加（前年度 498/1981 件）

2. 医療安全マニュアルの整備と指針の修正

3. 多職種の協力のもと院内全体での医療安全意識を向上することが出来る

（感染管理） 1. 手指消毒剤の実施回数が前年度より増加する（10 回 / 日 / 患者 を目指す）

2. 感染防止対策マニュアルを見直し、改訂する

総合患者支援センター

▶ 職員紹介 ◀

- センター長：今崎貴生（院長）
- 地域連携室 室長：吉田宗紀
事務員：伊藤晴夏、石川留美、北村亜沙美（業務委託）
鈴木久美子（3月31日まで）
- 患者支援室 師長：浦部裕子
入退院支援看護師：瀬戸口望、小宮聡子
- 患者サポート室 看護師：鮎澤奈穂子
- 医療福祉相談室 室長：吉田宗紀
ソーシャルワーカー：坂東香織、山本裕美、佐藤麻優

▶ 業務内容 ◀

総合患者支援センターは、地域連携、患者支援、患者相談窓口、医療福祉相談の4つの機能を有しており、医師、看護師、ソーシャルワーカー、事務員で構成され、地域の皆様と患者さんのご要望にお応えできるよう、院内外の調整と支援を行っている。

▶ 2024年度実績 ◀

〔医療連携部門〕

診療科	紹介件数	逆紹介件数
内科	3,827	3,184
小児科	264	383
外科	376	643
整形外科	630	664
皮膚科	67	37
産婦人科	644	134
眼科	248	263
歯科口腔外科	1,301	1,545
泌尿器科	440	330
計	7,797	7,183

受診・検査受付件数		
受診依頼	外来	153
	入院	299
	救急	315
	計	767
検査サービス	CT	189
	MRI	112
	MMG	0
	内視鏡	21
	計	322

紹介率	93.1%
逆紹介率	71.5%

〔医療相談部門〕

相談件数			支援内容		回数
診療科	回数	人数			
内科	6,493	1,025	在宅退院	在宅退院をするための在宅ケア諸サービスの活用援助	2,343
小児科	9	8	転院援助	転院のための病院施設などの選定援助	1,094
外科	595	129	施設入所	転院のための介護施設等の選定援助	2,012
整形外科	1,462	227	制度利用	社会保障制度、福祉制度などの活用についての援助	614
皮膚科	4	3	退院後	退院に伴う様々な問題へ対し、不安の軽減と取組を促す援助	1,858
泌尿器科	187	48	受療援助	当院への受診や入院についてのサポート	66
産婦人科	27	11	療養生活	療養生活上の課題、心理社会的問題の解決等に対する援助	685
眼科	12	3	医療費等	医療費など経済的問題に対する援助	190
口腔外科	3	3	関係調整	患者さん・家族・職員・地域などの人間関係に対する援助	181
その他	61	6	情報提供	患者さんの支援における関係者への情報提供、情報交換	1,051
計	8,853	1,063	その他		101
			計		10,195

▶ 2024年度総括 ◀

地域連携部門では、2024年度も近隣医療機関から多くのご紹介をいただいた。

2024年4月より患者支援部門に看護師長が在籍することにより、ベットコントロールを含め地域からの転院依頼をスムーズに調整出来るように尽力することが出来た。

「地域連携セミナー」、昨年より再開した「顔の見える医療連携の会」も引き続き開催。実際に地域の先生方とお会いすることにより顔の見えるつながりを構築することが出来た。

また、2024年度から行われている下り搬送事業では市内の医療機関とWEBミーティングを繰り返し行うことで、

誤嚥性肺炎等の患者をスムーズに受け入れすることで地域貢献が出来た。

退院支援部門では、病棟とチーム医療を行うことで入退院支援加算は193%、地域の関係機関と患者の情報共有をすることで介護連携指導料が165%増加した。

▶ 2025年度目標・計画 ◀

地域連携部門では地域の医療機関からの相談件数に対し75%の受け入れを目標とする。

退院支援部門においては今後も独り一人の患者さんに寄り添い、関係者との連携を密にし地域貢献をしていきたい。

洗濯室

▶ 職員紹介 ◀

非常勤用務員 佐藤和枝

▶ 業務内容 ◀

リース寝具、リースリネン類の管理

リースタオル類の管理

委託洗濯品の管理

院内選択

縫製、修理

医師用当直室準備などの院内業務

感染汚品の一次消毒業務

▶ 2024年度総括 ◀

リース品の使用が円滑に出来るよう管理業務の遂行と、衛生面に配慮し、感染汚品の一次消毒を1名体制で行って来ました。

▶ 2025年度目標・計画 ◀

情報収集に努め管理業務、院内業務の円滑な遂行と、衛生面に注意を払い、感染汚品の一次消毒業務に取り組んでいきたい。

VII 健康管理センター



健康管理センター 診療部

▶ 職員紹介 ◀

- ・ 今崎貴生 (センター長、専門：呼吸器内科)
- ・ 矢那瀬信雄 (副センター長、専門：呼吸器内科 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医・指導医、ICD協議会認定インフェクションコントロールドクター、日本医師会認定産業医)
- ・ 吉田宗紀 (部長、専門：外科 人間ドック学会認定医、検診マンモグラフィ読影認定医、日本医師会認定産業医)
- ・ 押田小百合 (専門：外科 日本外科学会専門医、日本乳癌学会乳腺認定医、検診マンモグラフィ読影認定医、乳がん検診超音波検査実施判定医、人間ドック健診専門医、日本医師会認定産業医)

▶ 業務内容 ◀

院内、出張型健診での診察業務に加え、各専門医による読影（心電図、胸部単純 X 線・CT、上部消化管造影・内視鏡、乳腺画像診断、脳 MRI など）を実施している。相模原市や座間市の自治体健診、予防接種、近隣企業の定期健康診断、産業医業務を通して、地域医療における予防医療およびプライマリケアの役割を担っている。

▶ 2024年度総括 ◀

2024 年度の受診者数（延べ）：55,676 名（内訳：院内健診 31,921 名、院外健診： 23,775 名）。受診枠は、午前約 100 人・午後約 40 人で 1 日 140 人程度が受診できる体制を継続した。新規のオプション項目として、膵癌の早期発見を目指し、土曜日健診（原則・第 3 土曜日）で膵癌ドックを追加した。

▶ 2025年度目標・計画 ◀

質の高い健康診断、正確な健診結果を基本に、業務を遂行する。各部署の連携をスムーズにし、より良い受診環境を整える。

新年度より従来実施していなかった月、火曜日の午後上部消化管造影検査枠を各 10 枠造設し、受診者が予約を取りやすい体制を整える。

受診希望の多い、内視鏡検査をより多くの受診者に提供できるよう、体制を整えていく。

受診者の希望に添ったオプション検査が提供できるよう、新規検査も検討していく。

健康管理センター 看護部

▶ 職員紹介 ◀

看護師長：井上光子

副看護師長：中澤直子

保健師：3名、看護師：11名

▶ 業務内容 ◀

院内及び院外の健康診断における計測、採血、聴力などの実施。その他に診察介助や医療面接（健診前問診）、特定保健指導、健診事後指導、電話相談、予防接種などの実施。

▶ 2024年度総括 ◀

当センターは、経年受診者が多いため、受診者にとってより安全・安心な健診環境が提供できるように継続看護の実施と、知識・技術の向上に努めた。また、待合室の保健指導のパワーポイントを更新し、健康診断の待ち時間を有効的にご利用していただけるように環境を見直した。

今年度も健康診断や予防接種などの事業を通して、地域に貢献できるように実施することができた。

▶ 2025年度目標・計画 ◀

1. 特定保健指導の利用率を向上させる
2. 看護職としての技術を向上させ、良質な健診を提供する
3. 受診者の満足度を上げるために出来ることを提案し、業務改善する

健康管理センター 事務部

▶ 職員紹介 ◀

管理課長：松永邦夫（2024年10月異動）

課長補佐：長福貢一（2024年9月退職）

主任：高橋努

課員：山下めぐみ、菊池紀子、金澤麻里（2024年6月退職）、山本晃大（2024年4月異動）、
本田主喜（2024年4月異動、同年6月退職）、五味俊介、伊垢離鮎乃

非常勤：鳥海志津子、前田明美

▶ 業務内容 ◀

人間ドック（日帰り・1泊コース） 生活習慣病予防健診 主婦健診 定期健康健診（法定健診）
相模原市特定健診 特殊健診 巡回健診車による健診、各種ワクチン接種などの事務に関する
こと

2024年度実績（件数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
受診者件数	5,735	4,319	4,928	4,710	4,061	4,420	5,412	6,504	4,429	3,543	3,630	3,985	55,676
内 院 内	1,677	2,303	2,410	2,742	2,800	2,652	3,117	2,931	2,947	2,675	2,656	3,011	31,921
内 院 外	4,058	2,016	2,518	1,968	1,261	1,768	2,295	3,573	1,482	868	974	974	23,755
人間ドック	171	346	473	535	488	478	616	514	520	439	419	504	5,503
市特定健診	88	286	277	301	304	338	402	354	442	415	433	441	4,075

▶ 2024年度総括 ◀

2024年度は、健診センターの収益として年間11億円維持を目標とし、今年度も達成することができた。

▶ 2025年度目標・計画 ◀

2025年度は、サービスの質の向上や職員のスキルアップを行い、安心・継続してご受診いただける「健診センター」を目指していきたい。

VIII 訪問看護ステーション



訪問看護ステーション

▶ 職員紹介 ◀

看護師長 石川由美

常勤看護師：池田有美、野田きよみ

非常勤看護師：小泉令奈、佐藤住栄 非常勤事務：早川香

▶ 業務内容 ◀

バイタルサイン測定、排便コントロール、清潔ケア援助（入浴・シャワー浴・清拭・洗髪・陰部洗浄・足浴・爪切り等）、食事指導、ターミナルケア、リハビリテーション・療養相談・療養指導・介護相談・介護指導

医療処置：在宅酸素の管理、胃瘻、腸瘻、人工肛門、人口膀胱、吸引、バルンカテーテル管理、CV ポート、抹消点滴、皮下持続点滴、麻薬持続点滴、創傷処置、褥瘡処置、気切管理、腹水穿刺後の対応、輸血等の対応、PTGBD 管理

<訪問利用者実人数>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
介護	59	65	58	59	60	56	59	64	65	63	62	66
医療	10	12	14	16	15	17	14	15	19	16	14	11
合計	69	77	72	75	75	73	73	79	84	79	76	77

<訪問看護延べ件数> 合計：4036 件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
介護	279	261	232	247	253	209	273	264	278	255	235	269
医療	51	95	85	94	96	93	78	76	101	67	82	63
合計	330	356	317	341	349	302	351	340	379	322	317	277

<新規利用者> 合計：73 名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
介護	5	5	1	5	2	3	5	5	3	1	3	2
医療	3	1	2	4	2	4	1	2	7	3	3	1
合計	8	6	3	9	4	7	6	7	10	4	6	3

<終了者> 合計：67 名

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
死亡	病院	1	4	1	1	3	1	1		2	5	2	1	22
	在宅	1	2	3	1	1	1	2	1	5		1		18
入院			1			1		1	1					4
施設入所			1	2	2	3	1	1			2		3	15
その他		1	1	1		1			1		1	1	1	8
合計		3	9	7	4	9	3	5	3	7	8	4	5	67

<指示書医療機関>

相模野病院： 41% 他病院：6% その他の診療所：7 % 訪問診療：46%

▶ 2024年度総括 ◀

一年間の訪問件数が4036件、一日平均は16.6件/日でした。前年度より514件増となり、一日平均は2.1件増となっております。終末期の利用者の急な退院にも柔軟な対応で利用者の確保に努めてまいりました。訪問終了者を予測し院内の医療相談室との連携を図り、病院から退院する患者の継続看護ができるよう取り組みました。退院後に継続して関わることで、セルフケアができるようになり訪問看護を終了される利用者もおりました。また、訪問診療との連携を図り、利用者・家族の希望に寄り添い、最後まで過ごしたい場所で療養生活ができるよう支援してまいりました。

毎朝のカンファレンスで利用者のサービス内容の検討を行い、質の高い看護が提供できるよう取り組んだ一年でした。

▶ 2025年度目標・計画 ◀

1. 病院から切れ目のない継続看護を提供できる
2. 訪問診療との連携を図り、最後まで在宅療養を望む利用者のニーズに対応できる
3. 地域から選ばれる訪問看護ステーションを目指し、看護の質の向上に努める

IX 学 術 業 績



循環器内科

学会発表			
演題名	アントラサイクリンによる慢性活動性心筋炎に対して、イバブラジンが奏効した1例		
演者・発表者	大木卓巳		
学会名	日本心不全学会学術集会	発表年月日	2024年10月4日

乳腺外科

学会発表			
演題名	乳癌術後低 Na 血症来した2例 医療安産上の改善点		
演者・発表者	林京子、藁谷美奈、羽廣健仁、上竹亜記子、三階貴史		
学会名	第32回日本乳癌学会学術総会	発表年月日	2024年7月11日
演題名	当院における漿液腫の検討		
演者・発表者	藁谷美奈、羽廣健仁、林京子		
学会名	第32年回日本乳癌学会学術総会	発表年月日	2024年7月11日

産婦人科（周産期母子医療センター）

学術論文			
論文名	胎児期に腹腔内臍帯静脈瘤と卵円孔狭小化症を診断し分娩時期に苦慮した一例		
著者	池之内英利華、石川隆三、松澤晃代、吉原一、新井正秀、海野信也、落合大吾、望月純子		
書名(刊・号・頁)	神奈川産科婦人科学会誌 61(1), 28-31	発行年月日	2024年10月

消化器内科／内視鏡室

学会発表			
演題名	セフトリアキソン関連偽胆石症による総胆管結石を生じた1例		
演者・発表者	赤嶺直哉		
学会名	第119回 日本消化器内視鏡学会 関東支部例会	発表年月日	2024年12月15日

リハビリテーション室

学 会 発 表			
演 題 名	心不全チームを通じた他職種連携とリハビリスタッフの役割		
演 者・発 表 者	箕輪俊也		
学 会 名	第 9 回 JCHO 地域医療総合学会	発表年月日	2024年11月30日
演 題 名	中等度以上の介護を要し自宅退院が不可能とみられたが他職種連携によって自宅退院を実現した一例		
演 者・発 表 者	田中智子		
学 会 名	第 9 回 JCHO 地域医療総合学会	発表年月日	2024年11月30日
書 籍 名	転倒予防のプロが教える正しい杖の使い方		
著 者	菫澤香菜子		
書名(刊・号・頁)	P30 ~ P37	発行年月日	2024年9月20日
書 籍 名	転倒予防のプロが教える正しい杖の使い方		
著 者	箕輪俊也		
書名(刊・号・頁)	P14 ~ P15、P26 ~ P29	発行年月日	2024年9月20日

2024 年度年報

2025 年 7 月印刷

2025 年 7 月発行

発行者 独立行政法人 地域医療機能推進機構
相 模 野 病 院

神奈川県相模原市中央区淵野辺 1 - 2 - 30

印刷所 株式会社相模プリント



独立行政法人 地域医療機能推進機構

相模野病院